

生命は自分のものである

ゆりかもめ7 金征花

目次：

1. 動機
2. ディスカッション
3. 結論
4. 終わりに

1. <動機レポート>

人間にとって一番一番大切なものは生命つまり生きていることである。赤ちゃんにとっても、老人にとっても、お金持ちにとっても、貧乏な人にとっても命というのは世界の何よりも大切なものであり、人は結局命ひとつだけのため一生懸命に生活していくのだといっても過言ではないだろう。だからこそ人々は一瞬間の時間も生き生きとした生活を過ごしたがっているのだ。

しかしこのように大切な生命が後何日か何月かしか残っていない場合もあるのが現実である。それでもし自分の家族が重病にかかったときはどうするか。本人に言ってくれるかどうか。また、患者本人はその現実を早く知らせてほしいだろうか。

私がこのような問題を深く考えるようになったのは一つのドラマを見てからである。主人公の女性はとてもすばらしいファッションデザイナーで、5歳の娘と自分を愛している夫とともに幸せな生活をしてきた。突然ある日、彼女は会社で倒れて病院に送られた。しかし診断結果は白血病だった。医者はこの現実を彼女には言わずに彼女の夫に知らせた。夫はどうしてもこの残酷な現実を言えなかった。妻はまだ若いのに自分のことが分かるのがっかりして治療する勇気までなくなるのではないかと心配した。しかし、結局は治療のため妻に言ったが、妻の反応は想像以外だった。彼女は「ありがとう、早く私に言ってくれて。」といったのだ。彼女はいつも自分にとって一番幸せなことは家族3人の生活だと思っていた。しかし普段は仕事のため家族と一緒にいる時間がとても少なくいつも夫と娘にすまない気持ちを持っていたのだ。だから彼女は自分に残った時間が少ないということを知って悲しかったが、この時間でももっと大切に家族と一緒に過ごしたがったのだ。

皆さんはこの内容を読んでどう思っているだろう。もちろんもし自分が夫の場合になったらたぶん彼のようにすごく悩むだろう。自分に残った時間が少ないということを知って、絶望したあまり治療もちゃんと進んでいけない場合も結構あるそうだ。それで家族はそれがかわいそうに見えてどうすればいいかすごく悩んでいるのだ。

でもわたしはつらいけど本人に知らせたほうがいいと思う。それは生命というのはあくまでも人間自身のものであり、自分が支配するべきであるからだ。もちろん人間は生きていながら自分意志のどおりにならないことがたくさんある。しかし少なくとも自分に属する時間だけは自分が把握しようとするのだ。自分に残った時間も知らなくてだんだん死んでしまうことほど残酷なことはないだろう。人は自分がどうしても実現したい、体験したいことなどきつとあるはずだ。

それで本文ではほかの人の意見も聞いて上述の問題についてもっと深く私の意見と論点を確認するつもりである。

2. <ディスカッション>

第一回目：

相手は院生の冴里さんである。自己紹介の時に生命ということについても興味があると言って、冴里さんと話し合ってみようと思ったが、冴里さんが仲良く協力してくれてとても嬉しかった。次は、彼女とのディスカッションの内容である。

冴里さん：命は自分のものであるというのはどういう意味？自分の残り時間を把握するということ？

私：そうですね。残った時間に自分がやりたいことを計画的に進んで行くことです。

冴里さん：自分の計画に沿って進んでいくことだね？それで、白血病とか癌になった時は自分がやりたいことをするため知らせてほしいということですね？

私：はい、それで夫の場合になったら知らせてあげます。

冴里さん：えー？妻の場合だったら知らせてほしいということは分かる。でも、夫の立場だったらどうして？夫にとって、妻の生命は自分のものではないだろう。

私：うん、、、妻にきつと実現しようとする事があるかも知れないから

冴里さん：えーと、でもこれはどうして分かるの。夫は妻が知らせてほしくないのか判断できないでよう？

私：、、、（これは考えなかったのに）

私：では、妻の性格などによるということですか。

冴里さん：いや、そんなこともあるんだけど、私はできれば事前に話し合っておきたいです。二人とも元気なときに、もしもという言葉、将来そうになったらどうしようと言いながら、約束をしたほうがいいと思う。で、どうして事前に話しておくのがいいかという一つは妻のため、もう一つは夫自分のためにもなると思ってるよ。

私：夫自分のためってどうしてですか？

冴里さん：知り合いの人のことだが、その妻がいま植物人になっている。それで治療のことで夫がちょっと悩んでいたが、妻との約束があってそれを守ることにしたんだ。その約束というと以前、妻がまだ元気な時に二人がもしあとで自分が重病にかかった時どうしてほしいかのことについて話し合ったが、その時、妻がも

しどうしても直れない病気に掛かったら治療を止めてほしいと言ったそうだよ。それで夫は妻がもうすぐなくなることには辛いと思ったけど、妻との約束を守ることができて、ある程度ほっとしたそうだよ。

冴里さん：つまり、私が言いたいのは夫でも妻がどう考えているのかよく分からないので、知らせるか、どうかよく判断できないと思う。それで、事前に約束をするほうがいいと思う。

私：そうですね。これは難しいですね。やはり人の性格や考え方は違ってて、よく知り合いの人であってもこのようなひどい事に遭ったときはどうなるかよく分からないですよ。普段堅強な人でも弱くなるかも知れないし。

私：では、冴里さんは妻の場合になったら知らせてほしいですか。酷い例をあげてすまないけど。(笑)

冴里さん：いいよ、別に、、、私は知らせてほしいよ。

私：どうして？

冴里さん：それは征花さんの意見と大体同じだよ。自分がやりたいことを実現しなくて死んでしまうのは無理だから。

私：そうですね、それよりももっと残念なことはないですね。よかった、同じ意見で。

冴里さん：そうなんだけど、今は自分が元気だと思う。それでそういうことが分かっただらどうなるかは実ははんきりとはいえないよ。また、50歳とか60歳になった時とか、現実問題になったときと、今頭をかけて考えるのが多分違うと思うし、、、

私：なるほどね、私もそれが現実になる場合には自分がどのようになるかはよくわかりません。ただ、今の見方としてはやはり自分自身のことを分かるのがいいと思うだけです。

では、冴里さんはその時自分が一番やりたいことは何だろうと思っていますか。

冴里さん：今まで世話になった人に「ありがとう」と感謝の気持ちをちゃんと伝えたい。海外旅行に行く時とかよくこのように考えているよ。また、都合がよければ、重病にかかっているその間の生活や自分の考えを本に書いときたいよ。

ここまではドラマの重病にかかったときの告知の問題についての話だが、冴里さんは事前に未来のいろんな出来事について相談しておくほうがいいという意見だった。もちろんこの方法はいいと思っている。しかし、人間は将来のことにおいて普通いい角度から見るだけで、このような想像はあまりしないと思っている。

<生命はほかのものから変わってくるのだ>

冴里さん：また生命についてちょっと内容とずれている話だが、「命は自分のものだ」これについて昨日からずっと考えたが、あまりそうじゃないと、、、

私：では、どう考えているか詳しく説明してくれますか。

冴里さん：私たちは毎日たくさんのものを食べるじゃない。例えば、植物とか動物などいるんな命が入って、つまりほかの者と溶けて私になっているという感じ。少し、ずれるけど、最近は生命についてこの考えがすごく感じられている。

私：、、、（私は何も言わなかった。本気に言うと最初は変な考えをもっている感じがしたが、よく考えてみるとそれも道理があると思っている。やはり人によって考えていることは違っているね。冴里さんのこの意見は私が書こうとする夫と妻の内容とはちょっと違っているが、生命の本意についてもっと深く考えるのも面白くて、大切なことだと思っている。）

以上で、冴里さんとのディスカッションは終わりになった。生命についてはなしもあったが、冴里さんは生命はほかのものから変わってくるから自分のものではないという意見だった。話し合いながら冴里さんが生命について自分なりのはっきりした理解があることを感じた。生きているのは何だろう。私を今までこれについて別に深く考えなかったことにふと気づいた。

第二回目：

今度のディスカッションの相手は台湾の出身で今はオーストラリアに移民して住んでいるジェニーさんである。彼女が生命についてどのような考えをもっているか聞いてみよう。

私：こんばんは、私の動機レポートを見てどう思ってますか。

ジェニーさん：ドラマの内容が面白そうに見えますね。中国のドラマだったら私も見られますのに、後で、テーマをぜひ教えてください。えーと、生命というのは難しいですね。また、死ぬことはもっと怖いです。私は弱いほうだから。

私：そうですね。では、ジェニーさんはその主人公の場合になったらどうしたらいいと思ってますか。

ジェニーさん：私もぜひ知らせてもらいたいです。なぜなら、えーと、たとえば、チョコレートとか、わたしはおいしいものは後で食べる習慣があります。しかし、それがなくなったり、誰かに食べられたりしたら、とても悔しいでしょう。このように、自分がやりたいこととかしなかったまま死んでしまうと、それより残念なことはないですね。

私：なるほどね。では、やりたいことってなんですか。

ジェニーさん：お世話になった人にありがとうと挨拶をしたいです。（冴里さんの話とまったく同じじゃん）

時間の制限で、ジェニーさんとのディスカッションはこれで終わった。長くはないが、ジェニーさんの考えは大体分かったし、また、彼女が上げたチョコレートの例はとても現実的で面白かった。明るい女の子だった。

第三回目：

今度のディスカッションの相手は香港出身のチンさんである。日本語は専攻とか就職に関係なしにただ趣味として勉強しているそうだ。日本のことについては全部大好きだそう

だった。次は、彼女とのディスカッションの内容である。

チン：(私の動機レポートを見て)患者に知らせるかどうかということですね。

私：はい。

チン：私には、秘密なんかほとんどないです。自分のこと、考えていることは全部お姉さんとか、友達に言ってしまう性格です。だから嘘なんか付くことは嫌いです。

私：正直な性格ですね。私もそんな性格が好きです。

チン：それで他人も自分に対してうそを付くとか、事実を隠すとかしないしてほしいです。いつも真相が知りたいです。また、自分のことについては、本人が分かるべきの権利があると思います。だから、知らせてほしいです。

私：そうですか。では、知らせてもらった時どんな気持ちになろうと思いますか。私は想像するのも怖いのに。

チン：もちろんかなり悲しいでしょう。

私：がっかりなんかしないですか。もし、もう病気が治れないのは医者さんからもう決まっているが、延命治療はできる場合はどうしますか。また、それは、お金がたくさん要りますね。お金持ちだったら大丈夫だが。

チン：でもできるだけの努力はしたいです。もしかして奇跡があるかもね。最後まで試したいです。

私：実は、私は生命についてあまり深く考えたことないです。さらに死ぬ事はぜんぜん、、、しかし、この間、地震のうわさがありましたよね。その時、初めて命について考えてみました。とても怖かったです。しかし、不思議なことにふと思いつくのは、親のことでした。もし、わたしがなくなったら、一番悲しがっている人は親だろう、だぶんその打撃のせいで、ちゃんと生きていけないだろうと。

チン：そうですね。

「最後まで試したいです」チンさんのこの話はとてもいい言葉だと思っている。感動的だった。いうまでもなく人間は一度しかない生命を大切にすべきだ。

<生命は神様のもの?>

私：チンさんは生命について考えてみたことありますか。

チン：あります。いつもではないですが、なんかすごく困った時とか、挫折に遭った時一瞬間に自殺を考えたときがあります。しかし、それは一瞬間だけですよ。

私：そうですね。死ぬことは一番怖いですからね。

チン：いいえ、そんなことではなくて、私にとって生命というのは私のじゃなくて神様のものですよ。(私：え?) あら、最初から金さんのこのテーマを見て私と違っているとしましたが、私は生命は神様のものだと思ってますよ。

私：神様? ああ、チンさんは信徒ですか。宗教はキリスト教?

チン：うん、私はキリスト教の信徒です。キリスト教では生命は神様のもので、人の生命は神様の支配によるし、人は自分の命を大切にすべきだと提唱しています。

私：あ、そうなんですか。そうすれば、たぶん生命についての見方が私とぜんぜん違うでしょうね。

チン：そうかもね。でも、金さんがどうして生命は自分のものだと言ったか理解できません。

私：そうですか、ありがとうございます。しかし、理解はできるが賛成はできないということですか。私は無信教だから、チンさんの言った事をよく理解できないのと同じに。やはりこれは難しいですね。また、誰が言ったことが正しいと言えないし。

チン：そうですね。人のよって考え方は違ってらるからね。

私：なるほどね。あ、もう時間だよ。今日はいろいろありがとうございました。とても役に立つと思ってます。

チン：いいえ、こちらこそ。ありがとうございます。

これで今度のディスガッションは終わった。チンさんとの話の中で信教のことを言い出したが、これは私がぜんぜん考えなかったことである。キリスト教について深くは分らないが、キリスト教は生命についてどのように理解しているかは少しは分かっている。だから、信徒と無信教の私が生命についての見方が違うことも当たり前のことだろう。

第四回目：

つぎはわたしのレポートの内容について同じグループの皆さんからもらったコメント内容である。生命のついでの彼らの考え方はとても面白かったし、私のレポート作成にもとても役に立った。

「生命は自分のものだ」について

虹さんの言葉：

私のほうは生命は自分のものじゃないと思う。でも、他の植物や動物の生命を食べてから、自分の生命に形成したから、個体的な生き物じゃないと思ったことがなかったが、どうして自分のものじゃないというか、自分の存在は家族や親友たちにとって大事ですから、おかあさんのお腹から出たものとして、自分の物じゃなくて、親たちに恵まれて生きてきた物だと思います。だから、生命そういうものはただ自分の物ではなく、社会に対して責任あり、家族にとって欠けられないものである。生物鍊の一つとして、自分が意識しないうちにもう世界に一つの位置を占めている。単なる自分の物じゃないと思う。

ゆりさんの言葉：

虹がいつている「生命そういうものはただ自分の物ではなく、社会に対して責任あり、」「生物鍊の一つとして、自分が意識しないうちにもう世界に一つの位置を占めている。」というところが私にとっての重要なポイントなの。。。私も今まで出会った人みんな、単純に感謝している人やことだけでなく、例えば私が嫌だなあって思ったことも人も、私のお金をうそをついて借りるといって返さない昔の彼氏でさえも、「なければよかった」と思う

ことはひとつもないなあってあるときしみじみ感じて、それがあるから今のわたしがあ
るなあって思ったときに、それが「生物錬の一つとして、自分が意識しないうちにもう世
界に一つの位置を占めている。」に関係するかもって思ったのね。

つまり私がもしだれかにとって好ましくない存在でも、きっとその人にとって何かの相互
作用はあって、それがどういう意味かはわからないけど、いなくてもいいわけじゃないの
かなあってね。

Uさんの言葉：

生命は自分のものかどうか・・・難しい・・・。僕は自分のものだと思っています。ニ
ジさんが言った「社会に対する責任」というのは、例えば、親に対する責任と考えると、
親に対する責任は、親が果たすのではなく、自分で果たさないと いけない。その責任が
果たせるかどうかも含めて自分の責任であり、だから生命は自分のものと考えたいと思
います。社会に対する責任・・・難しい。

私が書いた「生命は自分のものだ」についてのおみんなの意見だった。私はこれについて
Uさんの意見に賛成だ。親とか社会に対する責任は自分がどのように人生とか生命を取り
扱うかに決まることだと思っているからだ。

3 . < 結論 >

いったい生命は何だろう。誰のものだろう。生命について書こうとして今まで2ヶ月ぐ
らい経ったが、生命のことがあまりにもはっきり理解できない。考えれば考えるほど難しく
なる。しかし、それはまた生命の重要さを意味することもできるだろう。

この間、三人とディカッションを行ったが、一番強く感じたのは、人にとって考え方は
違っていることだ。冴里さんの生命はほかのものから変わってきたという意見とか、チン
さんの生命は神様のものだという意見など、、私は考えなかったことだった。また、彼ら
の意見から生命についてもっと理解を深めることができた。たぶんこれが、この総合授業
の目的までは言えないがやりたいことではないかと思っている。

三人とのディカッションをまとめると皆が重病にかかったとき相手が知らせてほしいと
いう意見だった。私の意見と同じだが、理由を聞くと、今まで世話になった人に「ありが
とう」とありがたい気持ちを伝えることだとの意見が一致していた。このように人間は親
とか仲良しの人がいなくてはいけないのだ。これがたぶん虹さんが言った親とか社会への
責任だろう。それで、このような責任があるから、生命をかってに取り扱ってはだめだ
ということも道理があると思っている。

ところが私は、やはり生命は自分のものだと思っている。客観的な原因で病気にかかる
とか事故に遭うとかのことは防ぐことはできないが、どのように生活するか、生命を大切に
するかはできると思っている。また、親とか社会に責任を持ちながら生命を大切にす
ることも人間自身が生命に対しての態度と関係あると思っている。

何度もいうが、生命はいうまでもなく重要なものである。大切にするのは当たり前のこと
だが、生きていながら、どのように生命を生かすかを工夫するのが一番大事なことだろう。

生き方とか人によって違うと思っているが、一人一人が一度しかない生命を大切にしてほしいのが私の言いたいことである。

4 . 終わりに :

これで私のレポートは終わりになりました。少しはほっとした気持ちです。(笑)正直に言って、最初是一个のレポートを3ヶ月もかかって完成するっていったい何をどのようにする授業かとの疑問を持っていたのです。しかし今考えてみると、その間、やったことはただレポート作成のことだけでなく、お互いに意見を受け取ったり、コメントをあげたりもらったりするいろいろコミュニケーションの過程だと思っています。それで、書く、話す、聞くなどの練習がバランスよくできるようになって、それが、たぶんこの総合授業の目的ではないかと思っている。

また、今度のレポートの完成までに同じグループの皆さんと、三人のディスカッション相手の協力について誠にありがたく思っています。とても珍しくて、楽しかった体験でした。

これからもよろしくお願いします。

節約してきた留學生活

t m

所属グループ：ゆりかもめ7

目次：

1・動機	ページ1～2
2・ディスカッション	ページ2～7
2.1. ジェニ さんとのディスカッション	
2.2. 段さんとのディスカッション	
2.3. ユンさんとのディスカッション	
3・結論	ページ8
4.終わりに	ページ8

1. 動機：

あっという間に、日本に来てからはもう2ヶ月たってしまった。この2ヶ月間の生活にはどんな変化が生じていたのか、振り替えてみると、何回もかみ締めてみた。やっぱり節約しているうちにいろいろ面白いことがあったと気付いて、それについてやや述べさせたいと思われる。

来日する前に、日本、特に東京の物価の高さを聞いたことがよくある。地価が世界一の東京に留学するため、誰でもお金を大事にしてたくさん準備しておいたのであろう。経済的な問題を全然考慮しなかった人もいると思うけれど、私にとって一番気になったのがやはり学費と生活費のことで、日本に来る前の1ヶ月は大変面倒くさかった。東京では一ヶ月いくらぐらいかかるかとかいろいろ調べ、そしてどのぐらいの生活費を持っていけばいいかを詳しく計算してみた。

この間、友たちから手紙が届いて、面白い質問が書いてあった。「私も間に無く東京に行くけど、そちら家賃はどう？シート、蒲団もちゃんとあるの？なければもっていく。」「日本の包丁、使い慣れるかな？使いにくくてたかいだろう？買って日本に送ってあげるか？」「日本でカットやパーマはスゲー高いって聞いた、行く前に国内で髪の毛から靴まで全部新しくにしたほうがいい？」読みながらぷつと吹き出してしまったが、実は自分のそのときも同じ不安を抱えていた。結局留学を決めたことは本当にとことんまでやる覚悟のほど、簡単ではないことであった。日本での生活に心配する私、もう少しでこのせっかくのチャンスを逃がしてしまうところであった。

幸いに、来日するの直前に奨学金の申し込む結果が得て、助かった。前の不安は準備の慌ただしさ変わった。日本への飛行機に乗って、成田に着き、留學生活の展開にドキドキ興奮しはじめた。重いトランクを背負って寮に向う時に使った2700円のリムジンバス代は最初の支出であった。それから、日本の物価の高さにもしみじみ実感し始めた。

奨学金をもらった私にとって、この2ヶ月間の暮らしがあまりキュウキュウしていない一方、ゆとりもほとんどなかった。お台場の夜景が楽しめる私も、毎月の家賃に悩んでいる。音楽が大好きな私も、日

本のCD屋さんの前でウィンドウ・ショッピングしかできなかった。何度も映画を見に行きたかったが、中国のチケットの値段に比べると、殺人的な差に驚かせて後ろずさした。経済的なプレッシャがあまり酷くないけれど、断然節約しなくてもいいともいえない。

どこの電子辞典が安売りだとか、どこのスーパーは割引しているとか、どこの弁当は美味しくて安いとかそれらを友たちに教えられたりまた他の友達に伝えたりする。節約するため私は日本に来てからたった1ヶ月間に渋谷から立川まで、東京の地図を持っていろいろな所にわたって足を運んでいった。見つけたら、友達の喜びも想像でき、本当に掘り出し物を発見するような嬉しいことである。自分だけにメリットするのではなく、みんなにも得をもたらすから、だんだん、なんだか自分が意義のあることをしていると覚悟して、やる気が上がる一方である。

しかし、節約の最初は単なるお金の問題で節約するわけでしたが、私はこの過程に恵まれたのは、けっして物質的なものだけではない。ぎりぎりの二ヶ月が経って、無駄使いが明らかに少なくなった。両親は家計のためにどんなに工夫をしているのか、買い物する時そのつらさがだんだん分かるようになった。節約するの初めは苦しかったけれど、今の私は何かをどうしても買いたい気持ちをとくとき我慢できるようになったことも少し理性的に成長だと言えるであろう。来日する前の、ある日の夜のことを、思い出した。両親と一緒に食事をしていて、二人はいつもよりくどくど喋った。「そっちではしっかり勉強すべきだけど、体も大切にしろよ」、父が語った。「そうよ、ちゃんにご飯を食べてね、インスタントラーメンばかりなんて無理に節約するな。」母が話しながら私のお碗におかずを挟んでくれた。うちはけっして豊かな家庭ではない、今の私は、両親と比べて、まったく贅沢な生活を送っている。あのシーンを思いだすたびに、本当に感慨無量である。だから、こんな私は、何とか二人のためにほんの少しできるのはこれだけであろうか。実は、私の心の中に、両親にナイショとすることがある。もうすぐ父の誕生日なので、父が前からキャノンのデジタルカメラがほしいということが偶然に母から知らせてもらったから、一台買って贈るつもりだ。そのときびっくりされて喜んだ父の笑顔を想像するのは、幸せなことだ。

東京を回っていたとき、原宿のにぎやかなおしゃれな店、秋葉原の電気街、高田馬場付近の古本屋さん……地理だけではなくこの現代都市の各方面を覗いているうちに、東京の特別な魅力はそのものに違いないと思われる。その魅力に引きつけられ、もっともっと東京を深く了解したくなる。異国でのホームシックや孤独感の代わりに、「私は、この都市と親しくなっているのだ。」というように感じた。家に帰る時に乗ったモノレールの窓のそとで見た東京も、徒歩でスーパーに行く途中で見た東京も、地図で見た東京も、広告で見た東京も、全部生き生きしている経済大都会の東京だと思って、好きになった。

一ヶ月経って、節約をしようといつも訴えている私も、いつのまにか既に30万円ぐらい使ってしまった。奨学金よりずっとオーバーした。でも、節約はたった経済的な面に関するのではない。体力の苦しみも精神的な楽しみも体験した私にとっては、節約のきっかけで、生活の難しさ、東京との親しみ、いろいろ分かるようになったのが何よりだと思う。日本の物価、かつては私の留学の妨げであったが、ある角度から考えてみると、そのおかげで、私は節約しているうち様々なことをいただいた。

他の人にとっては、節約が恥ずかしいことかもしれないが、私にとっては、節約してきてからこの一ヶ月間、両親の苦しさや恩情をよく知る一ヶ月間であり、成長できた一ヶ月であり、さらに、東京、この不案内な都市との親しんでいる日々であるから、私にとって、いろいろ甲斐があった一ヶ月間でした。節約してきて、よかったです、そう思われる。

2. ディスカッション:

第一回目 相手は台湾出身で、オーストラリアに移民したジェニーさんである。

こんな豊かな生活してきた「お姫さん」のような方に自分の気持ちが良く伝えられ、うまくディスカッションできるのかを、本当に心配しましたがけれど...結局、正に違いそのもののおかげで、いろいろな考えたことのない面白い話ができ、楽しかったである...

2. 1A 違うところの一 経済的な問題ではなく、性格のため節約する？

私：私のレポート動機を見た後、節約してから、私の体験と同じ、何かをもらった感じがしたのか、精神的に、成長してきたみたいで（思い出したか？）。

ジェニー：それはないけど、でも、それはもう性格だから、台湾でも生活費ずいぶん安いけど、私はあんまり、いらぬものはいらぬ。別に東京に来てから、節約し始めたのじゃなくて、今までずっとそうしてきたと思う。

私：オーストラリアでも節約したのだから。お母さん、お父さんと一緒に住んでいる時。

ジェニー：うん、あまりお小遣いとかなから。

私：そこで節約していた時は何か面白いこととか、覚えていない？

ジェニー：面白くないでしょう、それは、節約のために、お父さんとお母さんは家計として、頑張ったとか、それも感じたよね。その頃もう感じられたから、やはり別に東京に来てから、感じられたものじゃないですから。

私：私とは違っているよね。

ジェニー：じゃ、中国で何かいい生活をしたのか？

私：いいえ、そうでもないけど、前は、生活のつらさを感じたことないだよね。ずいぶん、両親に甘やかされて、節約を、考えたことないわ。（ジェニー：いいなあ）中国の物価も低いし、東京より結構低いから。

ジェニー：それが分かる。

私：それで、今の生活とオーストラリアでの生活、何か変わったことがあるか、特に経済的に。

ジェニー：それが自分にとって一番小さい問題だと思う。お金がなくても...百円で買えるものも多いし。9月の時、母と一緒に東京にきて、ほしいものを全部買ってきてから、今はもう食べ物、交通費、で、大体それだけだから、お金そんなにかからない。

私：それじゃ、今、節約する目的はなんだろう。どうして、節約しなくてもいい状態で、節約を続けるのか？

ジェニー：やっぱりそれは性格。百円のものがあるって、二百円のものもあって、百円のほうがいいでしょう？（私：（笑う））来年はホームステイの所に住むから、今は一人暮らしで、なんか、一人暮らしの感じは、なんでも簡単にできることだ。うちに帰って、冷蔵庫からビール一本、で、テレビを見て、インターネットで彼らとチャットして、後は、インスタントラーメンとか、パンとか...

→ ジェニーさんと話しながら、私と違っているところにだんだん興味があるようになる。私だけじゃなくて、他の留学生たちの生活様式も知りたいから。あ、そうか、こんな生活を暮らしているのか、面白いね、という感動をした。始めて海外にくる私に対して、興奮を起せることは、たぶん彼女の場合は平気に扱えるに違いない。したがって、私が面白く思うこと、東京をもっと親しくなること、彼女は

ぜんぜん感じられない。

2.1B 違うところの二 違う経歴のため、留学と節約の関係はそれぞれ思っている

私：つまり、ジェニーさんにとっては、節約するのはあまり重要な意味がないよね。(ジェニー：(笑う) そうだね。)ただ性格のため、できるだけ範囲で節約するのだ。私とはちょっと違っているね。ところで、ご両親はジェニーさんのお体、健康について、心配しないか、たとえば、電話でいつも注意するとか。

ジェニー：心配はあるけど、私は、オーストラリアにいるときも、母と父はいつも忙しいから、大体独立できる。母と父も私はちゃんと自分のことを、自分で面倒を見ることができるといって自信がたぶん、持っているから。

私：お金の使い方もちゃんと分かるとご両親は信じている、っていうことだね。(ジェニー：そうです。)私のほうは日本に来てから(強調)、このようになってくると思う。

ジェニー：たぶん、中国にいるとき、両親はすっごくかわいがって、なんでもしてくれたから、それで日本にきて、いろいろきつい感じが...でしょう？

私：このレポートを読んで、その感じがするかね？

ジェニー：そうです、特に先の文に、「ちゃんにご飯を食べてね」とか、(笑う)

私：私はほかの家庭でも、両親はこのように留学する子供に言うはずだと思うけど。ジェニーさんは違うね？

ジェニー：私の家族はちょっと変わってる。(笑う)

私：いつも海外で一人で住んでいるから。それじゃ羨ましいね。ジェニーさんは私より小さい頃から、成長できたと思うから。生活の辛さを、私よりずっと昔から分ってた。

ジェニー：うん、たぶん移民のおかげで。

私：今、もう東京の生活に慣れたか？買い物とか、いつも行っているお店があるのか。安いものを探していったことがないよね？秋葉原に行ったことがあるの？

ジェニー：行った、行ったことがあるよ、それは観光のために(二人とも笑う)。

——▶ 相手の一風変わった生活様式にちょっとびっくりされたが、ジェニーさんに頭下がった。幼いときに故郷を離れ、異国の生活に慣れた彼女のような人たちは、節約は当たり前のようなものにして続けてきたそうだ。その間、きっと難しかった日々もあった。まだ幼い女の子、よく知らない異国で十年ぐらゐ暮らししてきた。それは、ずっと故郷で両親に可愛がれた私に対して、まったく特別な体験だ。成長、ここでは、どういうことだろうか、よく考えてみた。何も親に頼って甘える寵児から、何とかして自分の力で頑張ってみたくなる過程は、成長とは言えるのであろうか。それなら、私は成長の気がする。

2.1C どうして違うのか 原因を分析してみた

私：ほとんど、私と同じ体験があまりないよね。

ジェニー：あの、中国から来たのでしょ、すっごく高くなる気がするはずだ。でも、オーストラリアはそんなに...(差が大きくない)台湾円にすると、日本は高いけど。

私：私とジェニーは同じ節約しているのに、感じたことはさまざまと違うよね。

ジェニー：背景が違うから、もちろん感じも違うでしょう。それは国の背景、そして課程の背景、そして、皆、自分それぞれの性格も違うから。そして今察にすんでいるのでしょ、でも私は一人暮らしだし。

私：そうだ。例えば、私は、日本の若者が独立だと思う。高校になってから自分の小遣いは自分バイトして儲けるほかない。(ジェニー：オーストラリアでも同じ)でも中国の私の友達、高校時代は余りバイトしなくて、日常生活あまり贅沢ではないけど、お小遣いは全部もらったのです。

ジェニー：私の家族はお小遣いはないだよ。だから、ほしいものは母に頼んで、オーケーなら買ってくれる。私は今の生活でも満足できる。

—▶ 以上のように、ジェニーさんの生活環境(国とかの地理条件、家庭の経済条件)、心理条件(移民の特典)と私のはだいぶ違う。まだ二十一歳であるが、大人らしいジェニーさんと初めて海外に出て、世間知らずの私は、そのいろいろな方面で違っているから、節約に対する考え方も同じではないわけだ。したがって、節約に悩まされている留学生は、私二人だけではないと思う。ぶつかっているところ、両方意見の交換を通して、互いに了解を深める。ジェニーさんたちにとっては、留学と節約はまったく別の意味だが、彼女も、私も、留学生たちみんなは同じように、留學生活を送りながら、前より、節約の人になった。

第二回目 相手は私と同じ、国費奨学金をもらっている段さんである。

前は自分と違う例をあげたので、今度は私と同じ条件の方と話してみることにした。国費留学生は本当に贅沢な生活を送るわけなのか、やや具体的な様子を見ようか。今度のテーマは、節約はつらいことだけなのか、それとも、そのおかげで、留學生活がもっと面白くなるか。

2. 2A 女の子同士の節約心得の交流

私：段さんは節約したことがあるのか？

段：日本に来る前に節約とはあんまりしなかった。日本に来てから、物価のために、トウさんのレポートに書いたように...

私：でも、段さんと私とは同じだよ。国費留学生ですから、奨学金がもらえるんでしょ？

段：そうですね。でも私、来年が大学院に入りたいたが、早稲田大学の学費とても高いから。今年は奨学金もらえるけど、もし節約しなかったら、来年大学院に入る時はつらくなるかもしれないじゃん。

私：学費のために、今お金を貯めて、準備してっていうわけか？

段：うん。それに、私、いろいろな可愛いものがとても好きなので、見るとすぐ買いたくなるわ。もし、食生活から節約したお金を全部ほかの買いたいものに使っちゃう。だから、節約は私にとっても必要だよ。

私：ああ、でも、食べ物には節約して、せっかく貯めたお金で「可愛いもの」(段：うん、服とか)を買うのが贅沢でしょうね。

段：はい、そうですね。(笑いながら言う)私にとって、服とか飾りとか第一、食べ物は第二番だ。

私：面白い。でも女の子はそうでしょう。それでは、段さんのは全体的な節約と言えないね。ある方面のためにある方面で節約するよね。

段：たぶんそう言えるけど。だって、日本に来てから、何でも節約した、しょうがないわ。服はとても高いから、中国にいる時たくさん買ったが、来日してから今まで(2ヶ月間半)たった二三枚くらい。

私：私は国から送ってもらおうよ、すごい面倒臭い(笑う)。

段：そうそう、私も。でも郵便費も高いよ、国際郵便だから。

私：でもそれを含めても中国からもらったほうが安いでしょう。

段：節約してから、生活の辛さを感じた。子供の時、母はいつも、野菜の値段を比べた後を買うことは、私はそんな時全然理解できませんでした。ただ少しの差で、どうしてそんなに遠いところからわざわざ買って、家に持って帰った。今は理解できる。

私：今も同じようにしているのでしょうか？

段：そうですね。スーパー、どこか安いか、いつ割引があるとか（私：はは、同感同感。）国費留学生だからこそ、節約しなくてもいい、とは言えないね。

—▶ 段さんと話している時、私いつも「そうそう」と頷いた。これは、国費留学生たちの生活実態だと思う。更に、節約対策では、食か服かどっちが節約に主役するのか、どっちが絶対節約できないのか、男の子と女の子の違いも見えるので、なかなかおもしろい。人によって違うかもしれないが、節約している皆さんも自分それぞれの目標があるのだろう。段さんのように進学のために貯金する留学生の姿を見て、みんな、夢がかなえるように心から祈る、自分のためにも、

2. 2B 節約のメリットは実感できるのか

段：もし、来年、大学院に入らなかったら、たぶん、節約したお金は旅行に使う。好きな物を買ったら、気持ちよくなるでしょ？欲しいものが変えなかったら、気持ち悪いね。

私：今節約している時、我慢しているですね。

段：はい、私は本当の節約屋ではないよ。本当の節約屋になりたくない。節約したお金で、ほかのことに使う時...

私：分かっている。成功感があるよね。

段：そうですね、大満足。

私：前は辛かったけど、今は、そのときは満足できるよね。

段：好きなものを買った後、自分の力と努力で。

私：満足の反対側、必ず代償がありますっていうことだよな。

段：それが楽しいことじゃない？買いたい物をやっと買える。そして、私も日本の電気製品を買いたい。父のためにビデオカメラとデジタルカメラ。（私：結構多くかかるわよ。）そうですね。だから、奨学金をわがままに使っちゃうのは情けないだ。できるだけ、毎日少しずつ貯めて。

私：節約しないと、お金はたまらないのよ。贅沢品を買うために。

段：だから皆は本当のけちじゃないと思う。ただしょうがないから。

—▶ 段さんの話で、わけもないが、なんだか女の子特有な純粋で、ロマンチックな感じがする。子供の頃、コインを缶に集めるシーンを目の前に浮かんできた。二人とも同じ喜びを思い出しながら、真剣に自分の計画を立てていた。私たちはそれぞれ的手段でそれぞれのためにお金を貯めている。節約がそんなに難しくないが、憧れる目標はまだまだ遠い。頑ばらなければならない！

第三回目 相手は大学院在籍で、韓国留学生のユンさんである。

私たちは日本に着てからまだ半年も足りない。日本に対しての了解も浅いと思う。最初は節約して、だんだん堪れなくなって、諦める人もいる。アルバイトして何とか稼げるので、金にそんなに気にならないひともいる。私より東京にもっと長く住んでいる方と交流したくなる。たぶん、先輩から何か節約の経験を教えてもらえるか、楽しみにしていたそのディスカッションは_____

2. 3A 先輩のアドバイス

ユン：私はなんか、安い店とか、普段、あっちこっちに行かないため、そういう情報はあまり詳しくないほうなんだよ。でも、バーゲンセールとかを新聞やチラシで見ると、すごく嬉しくて、ちゃんとチェックして、買いたいものがあれば、買いに行くけど、東京ともっと親しくなるって言う感じが無い。(私：ないですか?)でも、面白いって感じたことがある。

私：それは何ですか？

ユン：テレビで、主婦たち向けの番組、どうやって生活費を節約するとかの番組を見るとすごく面白い。例えば、使えなくなった牛乳を捨てなくて、何とか使えるようにする方法があるそうだよ。昨日も、4人家族の電気代が2万円を5千円にする方法をテレビで教えてくれた。それをみて、あ～あれがいい。そういう本もたくさん売ってるじゃないですか？

私：それは私この前思わなかった方面だね。面白い、さすが先輩。そういえば、もうひとつのことを思いついた。牛乳とか、電機とかを節約すること、自分に恵まれるだけじゃなく、その知識を学んだ皆も従えば、みんなの節約の共同結果は環境問題、エネルギー問題にもいい影響をもたらす。遠い話なんだけど、確かにちょっと関連があるよね。

ユン：そうですね、貢献とも言えるかも。今、これだけは節約しているってところがあるのか？

私：私は全体的だね、全て。でも食べものにあまり節約していない。おいしいものを見ると我慢できないね、やはり。自分も体に注意しているから、栄養たっぷりっていうよ。

ユン：いい品物だけ食べている人は、たまにこういうことを言うんだよ。将来に、病気になって、診察料をたくさん払うより、いいものを食べて、健康になるほうがいいって言う考え方もある。

——▶ せっかく日本に留学してきたから、元気いっぱい勉強するのが大事だ。節約することにも原則がある。自分の健康に害する節約はしない方がいい。これは、先輩から勉強したことだ。ここまで、三人の相手に同じ質問をしたけど、誰でも節約のうちに「東京と言う都市と親しくなる」の感じをしないみたいである。どうして私しかそれを感じてたのだから、どうしてみんなこれについて納得してくれないのか、たぶん、それは、節約そのものとあまり関係がないだろう。あらゆる道はローマに通じるように、東京を了解する方法がたくさんある。ただ、私選んだのは、この道だ..

2.3A 先輩の考え方

ユン：文章の最後に、「節約が恥ずかしいことかもしれない」と書いてあるね、でも私は、節約がけっして恥ずかしいことだと思わないの。節約すること自体、その行動を、またその人は何か考えている人だし、また将来的なことも計算している人だと思うので、スマートな人だと思う。

私：ユンさんの考え方がユニークだよな。そういえば、確かにそのとおりだ。でも、恥ずかしく思う人もいるよね。例えば、安い服を買って、友達に知られたくない...今の留学生たち、若者たち、そういうことにすごく気になっている。

ユン：私は、とても安く見えない服を誰かが安く買ったこと...たとえば、もし、今度私のコートにそっくりのコートを、私の友達は何万円より安く買ったんだ。それで、かえって私がバカだと思し、その人が恥ずかしい人だと思わないよね。そういう人は、すごい情報に明るい人だし、社会の情報について目が鋭く見ていて、賢い人だと思うよ。

——▶ 先輩の話がすばらしいと思う。もし、この前のディスカッションは交流だとすれば、先輩との話は勉強になる。私は節約のことを恥ずかしいと思わないが、他の人のを顧慮して、多少に心配している。自分がけちだと誤解されるのが嫌だし、他の人に対して、節約のことがプライバシーと思う人もいるし、

なかなか本音を聞かせたくないかもしれないから、でも、先輩と率直に話し合ったあと、この話題についてももっと落ち着いて、客観的に理解できる。今はっきり言える、節約はけちと等しくない。逆に、節約しないと、虚栄とは等しくない。自分は自分の生活様式で暮らしているだけだ。節約していくのが私にとって、十分楽しいことだ。

3. 結論:

動機を書く時すごく辛かったが、何とか、ディスカッションの部分が皆さんの協力の結果、おしまいになった。節約と言うテーマにたいして他の人はどう考えているのか、私はちゃんと自分の見方を相手に伝えられるかどうか、ほかの人たちは恥かしく思わなくて、正直に話してくれるのか、前はすごく不安であった。でも、三人も真心を込めて、自分の留学生活、節約の体験を紹介してくれた。それに、人はそれぞれ自分の個性があるので、ディスカッションごとに、違う感想が出た。この違う感想も、私が動機をもう一度読んだ時、理解を深めるのにそれぞれ役に立つ。話を思い出しながら、動機ももう一度突っ込んで考えた。

- (1) 最初はジェニーさんと話してみた。前に述べたのように、違う環境で育った若者の違う価値観を感じた。私は奨学金をもらっているから、ほかの私費留学生の辛さがまだ分からないかもしれない。ジェニーさんとの話を通して、私のようにではない留学生たちのことを了解できるようになる(ジェニーさんも奨学金をもらっている)。特に、私の周りに全額私費で留学するの人もいる。毎日バイトと勉強で、忙しい日々を送っていた。私は彼らの姿を見て、この問題についての感想を耳にしたくなる。皆の状況が違うから、見方もきっと違う。たぶん、この会話のように、また何かの発想が出た。自分はどんなに考え込んでも、この効果が出ないから。でもとりあわず、ジェニーさんから、他の人がどういう風に日常生活で節約のために努力しているのか、一変かわった、わたしにとって新しいスタイルを説明してもらった。
- (2) 次は段さんとの気楽なディスカッションである。皆の「国費留学生なのに、どうして節約するの?」という疑問に答えを求めるのためか、国費留学生の段さんと話し合った。楽しかったのはいろいろのことに同感できることである。それは、ただ節約がすべきだと証明するのではなく、節約は我々にどんな意味があるのかを認識できる。段さんは節約の必要性を指摘して、二人で節約の目的「進学」までを分析して、自分の留学生活に、節約に重要な甲斐を再認識できた。
- (3) ユンさんとのディスカッションは、深く考えさせ、はと悟らせるものである。節約の原則は自分の健康なのである。したがって、基本的な生活水準を保証したこそ、節約をするのが、前提だと考えている。このように考えると、節約とケチは同じではないことが分かる。ケチ、あるいは口ケチのように自分に、他人に迷惑をかけるまでやりすぎた節約は良くない。ただし、留学生として、まだ両親や政府からもらった金を乱暴に使ったりするのが望ましくないことである。わたしたちは、できるだけ、そうしないように、お金を大事にするのが、私の動機に書いてある「節約」の本当の意味である。

動機を書いた時、自分はいろいろ体験談と感想を書き出したのだが、自分の世界に閉じこんでいるみたいで、他の方々との交流が全然なかった。一人でこの国の土に踏みつけた時から、いままでの心得を、皆に了解していただきたいため、書いたのは私のこのレポートの「動機」そのものだ。というのは、東

京市内を回って何かを探しているとき、何かをやっと見つけたときの思い出を目の前に浮かんで来て、皆に話してみたいのだ。題名は「留學生活の中の節約の奥の手や秘訣」ではなく、「節約してきた留學生活」だから、この生活自体を中心として取り上げた。

その主旨の下で、動機の内容は、留學する前、留學を決意した時、来日したばかりのとき、留學してから今までの順で展開した。そして、節約しているうちに、わたしは、親の苦しさと一人暮らしの難しさを実感し、成長できた。さらに、東京を遠い都市から、だんだん心に近い都市になるように思える。後者については、ディスカッションの時、相手の興味を起せなかったみたいだが、自分の気持ちはそうだから補足も直しもしなく、そのまま皆に読んで欲しい。留學生、誰でも、「郷に入れば郷に従う」といったように、時間のたつに伴って、東京での生活に馴染めた。だが人の生活態度によって、この過程は違う。例えば東京のファッションを通して東京と親しくなる人もいるかもしれませんが。でも私は、この留學の生活を通して同じ結果ができた。

4. 終わりに

最後の段階である。内容は一応整理して、いよいよこのレポートを出すところだが、思いがけなく、もうすこし時間をくださって書きたいという気がする。最初は、「一学期に一部のレポート、楽だなあ〜」と思ったのに、この四ヶ月間は決して楽ではない、せかせかして、ぎりぎり書き上げた。この四ヶ月間にわたって、資料を調べたり仲間たちと議論したりする努力は、レポートの完成と伴って終わるわけではない。私はレポートを懸命に書いているうちには、節約にもう慣れし、仲間たちからももらった優しさも忘れられない。更に、レポートを書くのがだんだん好きになってしまった。

私と味噌汁

-----留学生活に慣れたとは

総合 3-7 ゆりかもめ7 李^リ妹^{シユ}

目次

1. 動機
2. ディスカッション
3. 結論
4. 終わり

1. <動機レポート>

大学に入る前に、テレビとか、新聞とか、ニュースなどを通じて、お鮨や刺身やラーメンなど多いとは言えないほどの日本料理を了解しました。大学の「日本事情」という授業で、初めて味噌汁とかお雑煮やてんぷらなどを知りました。ただし、味噌汁というのは一体どんなものを想像したら、大体中国の野菜スープと同じぐらいで、名前の違いだけだとわがままに思っていました。生の物を食べる勇気の乏しい私はその時に、日本料理を食べてみようかということを考えるだにしませんでした(お鮨も刺身も食べたことがない人は「日本料理を食べたことがある」と大きな声で話せないとおもうからです)。

初めて日本料理を食べてみた経験は恥ずかしい話です。大学三年生の時、日本人先生のアパートへ遊びに行った時のことでした。その日、先生のおかあさんがわざわざ日本から送ってきた日本食材が着きました。懐かしい日本料理が食べられるようになった先生はいそいそと味噌汁を作って、食べさせました。出来上がる前に、味噌汁の味は部屋中にあふれて、私ともう一人のクラスメートは二人とも「変なおいだなあ」、「何か腐ったのか」とお互いに聞きました。「やっとできた」と先生は台所から居間に入ってきたに従って、その変なおいが濃くなり、最後、私とクラスメートの目差しはその味噌汁にとまって、「え、これは日本料理?」、「なんでこんなにおい?」と目を丸くしました。先生のご好意を断るわけにはいかないから、私たち二人は我慢して、一気に飲み終わりました。先生が自信満々の顔をしていたから、何の文句も言えずに帰りました。翌日、授業休憩の時、二人はそのことを話し合っ、「漢方薬より我慢できないものだ」という私の意見を大賛成してくれました。その後、長い間に、日本料理を食べることを無視しました。

味噌汁との二回目の出会いは会社の食堂にあった。胃の調子が悪くて、何も食べる気がなくて、スープだけを飲みたかったが、その日、食堂のメニューに味噌汁だけ書いてありました。いままでの思い出で、やめようと思ったけど、同僚がもうその味噌汁を私の前に持ってきましたし、「体にいいよ」と話してくれました。わざわざ持ってくれたので、飲まないといかない状態に陥った私は鼻をつまんで飲みました。今までと違うことが出ました。今回の私はまったく腐ったにおいを嗅ぎませんでした。自分自身のこの変化は「日本人が作った本物の味噌汁

と中国調理師が作った味噌汁の間に必ず差がある。中国人調理師が作ったのは中国人の口に合う味噌汁です」と先生の味噌汁と一緒に食べたことがあるあのクラスメートはこのように解釈してくれました。私も「なるほど」と考えないで、うなずきました。それで、大学のクラスメートたちの間に、私より早く日本へ留学に来た人もいるし、出張してきた人もいますが、同窓会のBBSで10人の中に6人ほど、「味噌汁」と言ったら、首を横に振りました。そうすると、私はもっと中国人の味噌汁調理法は日本人のと違うと確信しました。

日本人が作った味噌汁に好感を持つようになったきっかけは日本での初めての食事でした。空港を出て、アパートに着いたのはもう夜の十時頃でした。迎えに来てくれた友達は晩御飯も食べないで、急いで空港まで行ったから、もうお腹がぺこぺこになりました。その夜、何を食べたかよく覚えていませんでしたが、味噌汁が印象的でした。「郷に入れば、郷に従え」ということで、飲みました。意外でしたが、中国人が作ったのとあまり違いがないじゃないかと感じました。やっと、私も本物の味噌汁を飲めるようになりました。それをきっかけにして、味噌汁はもう毎日私の食卓の上に欠けることができないものになりました。

何年間の日本語を勉強したのに、その母国に一度も行ったことがなく、中華風の日本語がなかなか直せないということに気になって、留学を決めました。それにしても、食べ物への不慣れ、バイトのつらさ、勉強の大変さなど、留学生生活を想像すると、諦めたほうがいいかなという考えも出ました。日本に来てからのこの2ヶ月に国内の親友達にいつも「慣れた？」とメールで聞かれました。始めたばかりの留学生活は急いで慣れた、慣れないと断言できないと思うけど、今まで想像していた留学生活の苦労を全部平気に見て、我慢して、日本社会に溶け込んできたなら、「留学生活になれた」と言えるでしょう！私にとって、日本での生活に慣れてから、苦労でもいいし、喜びでもいいし、外部環境に影響されないで、諦めずに留学の目的を目指してがんばっていくという意味をもっているかもしれません。もし、今日何が食べたらいいか（日本料理がなかなかのどに通れない）、バイト先のあの人にいじめられて、やめたい、こっちの生活は大変、帰国したいと毎日考えてばかりいたら、ここに来る初心を忘れて、自分の大切な時間を無駄にしたといえるほかならないと思います。「食は天」（食事は一番大切なこと）という中国の俗語があり、食べ物に慣れたという第一歩を踏み出したということは留学生活に慣れてきたシンボルで、これからは一步一步しっかり歩いていて、目の前に押してくる困難が乗り越えられると確信します！

留学生活が展開し始めた頃に、食事にやかましい私はもうこちらでの食べ物を段々受け取ってきたということは良い兆しではないか？それに、これをきっかけに、この先、次から次への困難に先立ち、今、毎日飲んでいる味噌汁は私にとって、留学生活に慣れてきたシンボルだと言えるでしょう。

2.ディスカッション

一回目:

今回のディスカッション相手は今まで日本に住んだことがあるクッキーさん

「一人暮らしに悩んでいたクッキーさんと食事のことを心配していたリシュの対話」

クッキーさん:日本に来る前に、こっちの生活への困ることはほかになにかありませんか？

私:別にないと思います。ここに来る前に、雑誌とか、新聞とかを通して、日本のことをよく調べました。道が狭い、人が大勢、バイトと勉強の両立などよく覚悟しておき、なんとかできると思いましたが、「食は天」(食事は一番大切なもの)の中国人にとって、一番困ったのはやはり食べ物のことだと思います。

クッキーさん:味噌汁以外になにか食べられないものがありますか？私の場合は味噌汁が韓国にもあるから、そんなにまずいとか、そんなことを感じていなかったけど、私の場合は納豆、韓国には納豆があるのですが、お母さんが好きで、うちに買ってくるけど、私は食べても、あんまりおいしくなかったが、ここに留学に来て、納豆が毎日食べられるようになったから、わたしにとっても、納豆というのは海外生活において、どんどん慣れてくることなのかなあ？(後のディスカッションを通じて、クッキーさんは納豆が一人暮らしにとって、一番便利な食べ物だから、慣れてきたということが分かった。その部分を省略した)

クッキーさん:それでは、日本人とのやりとりは心配ませんか？

私:大学を卒業してから、日系会社に3年間を働いていました。普段、いつも日本人の同僚と一緒に仕事をしていましたから、その方面に別に問題がないと思います。

クッキーさん:私の場合は日本に来て、食べ物はあまり問題ならなかったのです。子供の時、日本に住んでいましたから、味などはもう慣れました。ほかの問題だとしたら、外国一人暮らしだから、一人でもっと規則的に生活しなければならない、自分でルールを決めて、守らなければいけないということです。外国で一人暮らししながら、こうやっていけない、問題があった時に、自分ひとりでどうやっていくか、これは今一番自分の中で、困っていることです。

私:私は高校時代から両親を離れて、学校の寮に住んでいました。大学も同じでした。会社にいた三年間に、年一回旧正月の時にふるさとへ帰って、長くても十日間ぐらいでした。ですから、一人暮らしに慣れてきたかもしれないが、家族一緒にいた時に、慣れない感じがしました。

私:クッキーさんにとって、一人暮らしの留学生活に慣れたということは、自分にとって、どういう意味がありますか？

クッキーさん:はじめは、何からしていいか？一人暮らしだから、洗濯もなにも自分でしなければならぬから、母の気持とか、母が大変だなと心から理解してきました。その間に、だんだん生活のルールを作り出して、あんまり考えなくても、今日はなにかしなければいけないという一人での生活ができるようになりました。慣れるということは私にとって、はじ

めは意識的にやって、後で無意識的にできること。一人暮らしの留学生活に慣れたということは、自分にとって独立性が養ってきた証拠だと思います。

「周りの環境が変えられない時に、自分が変わるしかない」という、どこから聞いてきた話かよく覚えていません。それに、今までその話の意味もよく分かりませんが、クッキーさんの話を聞いてから、なんだか分かったような気がしました。ずっと両親の傍にいて、日常生活の些細なところに気づかないままでしたが、日本に来てから、生まれて初めての一人暮らしを迎えてきました。異国での生活は母国にいた時の生活と随分違い、自分を変えないとうまくいかないから、意識的に自分を改造しはじめました。段々慣れてきて、無意識な行動に変わりました。しかし、私の場合はどういことですか？一人暮らしが随分前から始まった私は、ここに来てから、故郷を離れることと母国を離れることの差もよく分かりました。もちろん、来る前に、「郷に入れば、郷に従え」ということを念頭に置きましたが、食べ物にやかましい自分を変える自信を持っていませんでした。でも、今まであまり好きではない味噌汁も好物になったということは、自分も少しずつ変わり、段々日本に慣れてきたような気がしました。「良い開始は成功への近道」という話もよく聞いて、いま、自分もそれを信じています。でも、「慣れる」ということはクッキーさんが言った通りに、「意識的」「無意識的」という過程かが自分はかなり迷っています。というのは、例えば、今回の「味噌汁」は無意識的に受け入れたと言えますけど、「ごみの分別」、「道で左側に歩く」ということはずいぶん意識を変えて、実現したからです。

二回目：

今回のディスカッション相手は国費留学生の張珊君さんと学生+先生という二重身分であった塩谷さん

「言語と食事に拘っていた張さんと人とのコミュニケーションに慣れていなかった塩谷さんとの交流」

私：張さんにとって、慣れたということは、自分にとって、どういうことですか？言い換えれば、どんな時に、「慣れた」と感じましたか？

張：私にとって、昔は絶対食べないもの、やりたくないことがいまは、食べられます、だんだん好きになりましたという時は、慣れたと感じました。例えば、「刺身」、日本に来たばかりの時に、柔らかくて、生くさいの刺身を試みる勇気がなかった。今は、好き、嫌いどちらでも言えないほどですが、食べられるようになりました。

私：意識的？それとも無意識的？

張：無意識的か？よく分かりません。

塩谷さん：李さんはどうしてそんなに食事に気にしますか？アメリカの大学で、学生に日本

語を教えると同時に、学生として、教授に教わった経験があります。アメリカの食べ物は油っぽいものを飛ばして、はじめに、人とのコミュニケーションが一番慣れなかったことです。

私と張さん: これは中国人の習慣かもしれません。

塩谷さん: 食事に慣れても、生活がうまくいけると言えないでしょう？

私: 私にとって、食べ物に慣れたら、一番大切な問題が解決しました。食事に細かくて、食べないものがいっぱいありますから。

それでは、塩谷さんはどんな時に、「慣れた」と感じましたか？

塩谷さん: 一年後、大体慣れてきた。学生ときちんと話ができるようになり、学生として教授に褒められた時に「慣れた」と感じました。

私: 張さんは国費留学生として、日本に来る前に考えた留学生活に一番大切なのは何ですか？

張さん: 勉強です。やはりどのように語学能力を高めることです。だから、李さんと違って、李さんは生活のために、バイトしなければならないんですが、私にとって、語学能力を高めるために、バイトがやりたいです。それもいい体験かもしれません。

留学生活への考えは人によって、違うから、留学生活に慣れたという契機も個人的に違います。張さんにとって、「刺身」のような、昔は絶対食べないもの、やりたくないことがいまは、食べられます、だんだん好きになりましたという時は、慣れたと言う。塩谷さんは学生、教授とのコミュニケーションがうまくできた時に、慣れたと言う。それに、クッキーさんの場合は一人暮らしが順調に進んできたという時です。私のようにもっぱらに食事に専念する人が珍しいという気がした。もしかして、自分が自分に作ってくれたこの枠から離れて、味噌汁以外の新しいシンボルが見つかるかもしれないか？しかし、どうしてこんなに千差万別ですか？性格上の問題ですか？

三回目:

今回のディスカッション相手はやはり国費留学生の張珊君さんです。前回に続いて深く聞きたいからです。

「風邪のことで胃痛してきた張さんの留学生活は「慣れた」から「慣れない」へ変容した」

私: 今、張さんは留学生活に慣れたと思いますか？

張: 本当にまだ慣れていません。この間、ずっと胃痛がしています。今まで、病気にかからなかった時に、「もう慣れた」と思いましたが、病気になったら、すぐホームシック。帰りたい、一人での暮らしが苦しい。考え方がすぐ変わりました、病気になった時。

私: 仮ですね。もし、張さんは今、留学生活に慣れたと設定して、それは自分のこれからの留学生活にどんな影響を与えますか？

張: もし慣れたら、これからの留学生活も大丈夫、続けていくことができると思います。

私:張さんにとって、こっちの留学生活は自分の人生にどんな影響を与えますか？

張:大学時代での専攻は日本語ですから、ずっと日本に来たかったのです。日本は一体どんな国ですか？それに自分の語学能力も高めたいからです。でも、ここに来てから、一週間ぐらい経っていたら、新鮮感がもう消えて、大体上海と同じな感じです。来たばかりの時に、食べ物でもいいし、町でもいい、なんでも新鮮と思いました。今はもう漠然しました。もしかして、これも慣れたということですか(私:自分ではそう思わない?)。

これからへの影響は人によって、違うと思いますが、私の場合では、来る前、自分の独立性が養える、意志を強くすることができると思いましたが、今の私はもう退きました(私の理解:病気のこと、一日も早く帰りたい、何もしたくないから)。でも、やはり良い体験だと思います。それに、お金の大切さもよく理解しました。学生の時代で、なんだか無駄遣いの感じでした。自分が好きなものはすぐ買いましたが、買った後で、いつも、それほど好きではないという気がしました。就職してから、給料ももらいましたが、毎日めちゃくちゃ忙しくて、お金を使う時間もなくなったから、ほとんど貯金しました(私:それはいいじゃないか?)。今はまた学生になりましたが、今までと違うのは、お金も持っているし、時間もありますけど、一人暮らしだから、節約始まりました。今までの自分のことを反省しています。

もともと慣れたと思って、病気のこと、考えが変わった張さんのことは留学生たちの中になかなか代表的なものではないか？始めたばかりで、この生活に「慣れた」とは言えない頃でしょう。今やった全てのこと、会った全てのことは留学生のほとんどがやった、会ったことでしょう。外国での一人暮らしに思いもかけないことがたくさん出てくるから、一つ一つ解決していき、益々慣れてきて、この留学生生活を平安無事に送るのは大切なことでしょうか？初心を忘れずに頑張っていて、母国との違う体験で、きっと何かの収穫を得て、これからの人生に役に立てると確信しています。

3.結論

いよいよ結論を書く段階になりました。待ちに待ったのですね。テーマを選んだ時に、いろいろ悩んだ末に、食事に関心を持っているから、このテーマに決めました。しかし、書けば書くほど、後悔してしかたがありません。というのは、「私と味噌汁」から留学生生活を論じることがなかなか難しく、ディスカッション相手の検討していて、しらずしらずうちに、ほかの課題に変えたこともよくあるからです。クラスのみなさんは私のディスカッションの内容を見てから、もともとの意味とちょっとずれて、何かの副標題をつけたほうが良いと進めてくれたから、「留学生活に慣れたとは」という副標題を加えて、今のテーマになりました。

外国人留学生として、異国に行ったばかりの時に、きっと慣れないことがいっぱいあるでしょう。外国ではなくて、国内でも同じです。風俗習慣、気候、環境、言語、食事などいろいろの違いがあります。すぐ慣れたとなかなか慣れないところもあります。それに、人によって、かな

り違います。私のディスカッション相手の三人はそのとおりです。

韓国からのクッキーさんは今まで日本に滞在した経験があるから、この日本に対して、異国の感覚がそれほど強くないですけど、ずっと家族と一緒に住んでいた彼女は、留学生としてこちらに来てから会った最大な問題点は一人暮らしです。自分に合うルールを作り、守って、独立性が養えてきたことはクッキーさんにとって、留学生活からもらった一つの成果でしょう。アメリカで二重身分した塩谷さんは学生に日本語を教えていたと同時に、学生としてアメリカ人の先生に教わりました。言語の問題で、コミュニケーションの順調さは塩谷さん当時の難点になりました。しかし、一年後、日本語で学生ときちんと交流できたと同時に、先生にも誉められた時はきっと達成感いっぱいでしょう。先生としての成功と学生としての成功、それで、英語の上達は塩谷さんの留学生活の成果と言えないではない。学生時代にお金のことを考えないで、無駄使いの張さんはこちらでの一人暮らしを体験して、社会人の立場で、節約を学びました。それに、病気が直った後で、「きっと自分の独立性を養い、意志を強くする」という初心を持ち直して、頑張っていく。

日本に来てから、慣れなければいけないことが結構多いです。すぐ慣れたこと、だんだん慣れたこととずいぶん時間がかかって慣れたことに分けられると思います。日本社会に溶け込むようになったら、「留学生活に慣れた」と言える。一つ一つへの慣れでこの溶け込みに達成したことではないでしょうか。逆したら、成立できないでしょう。人々は自分性格とか、備えている条件とかから見れば、ずいぶん違います。従って、この異国生活に面して、一番早く克服しなければならないことも人次第です。食事を心配していた私にとって、毎日飲んでいる味噌汁は留学生活に慣れてきたシンボル、第一歩だと言えるでしょう。

4. 終わり

最後になりました。このディスカッションを通して、自分の考えを他人に受け入れられるということはどれほど苦勞のことか良く分かりました。でも、みんなとのディスカッションはなかなかいい思い出になれると思います。楽しいディスカッションをしてくれたみなさん、及び、いろいろアドバイスをしてくれた同グループのみなさんに本当に感謝します。

一見して、すごい簡単な問題で、あまり深く考えたくないのですが、本当に真面目に道筋が立てるように考えてみれば、予想以上の難しさです。なんと言っても、この授業は自分の考えをまとめて、明確化させるチャンスを提供してくれました。良いチャレンジです。

家 庭

徐新華

総合 3 - 7 ゆりかもめ 7

目次

- 一、動機
- 二、ディスカッション
- 三、結論
- 四、終わりに

一、 動機

家庭というと、勿論だれでも持っているはずですが。生み育ててきた家庭に対して、異国にいる留学生の私たちは、時々懐かしく思い出すでしょう。

家庭の家という漢字は上の宀と下の豕という二つの部分によって作られたもので、宀が屋根の意味で、豕が豚の意味です。漢字をつくった古代の中国人にとって、屋根と豚があれば家をもつということを意味しています。言い換えれば、住と食に簡単に満足すれば家になります。この意味から見れば、古代中国人は生存の基本必要によって家の概念を考えていたのです。21世紀になった現在では、人間は家庭についての見方として、と言う物質的な需要より、むしろ精神的な需要を重んじているといえるでしょう。

一般的に言うと、人間は愛し合って結婚して家庭を結びます。それに愛を続けるために子供を作ります。だから、子供は愛の結実だと言えます。人間は家庭で生まれて、育てて、大人になって、自分の家庭を作ります。こういうように繰り返していけば、人間は生存していけるし、人間自身の繁殖もできます。人間が少年期、青年期、中年期、老年期まで成長していくうちに、なくてはならないのは家庭のほかにはないと言えるでしょう。

家庭のよさについて、誰でも感慨深いでしょう。同じ屋根に長く暮らしている家庭の間には、知らず知らずに心の深い絆が生えてきたのです。だから家族の誰かが傷ついたり、悩んだりするとお父さんもお母さんも兄弟も自分のことのように胸が痛むでしょう。家庭は衣食住に満足するところだけでなく、喜怒哀楽を託するところで、心のふるさとでもいえます。

日本ではサラリーマンが朝早くでかけて、晩遅く帰るのは普通です。だから、毎日妻というのが、たった 飯、風呂、寝るなど三つの言葉しかないという人がいるそうです。こん

な噂が確かだったら、こういう家は完璧だとはいえないし、長続きでもないでしょう。家庭を維持するために、単にお金によることではなくて、感情やコミュニケーションも必要です。

現代家庭では、コミュニケーションなどが欠けて、離婚率が増える一方です。家庭の崩壊は青少年犯罪の最も重要な要因だと言えます。人間の精神成長は学校に入るまでに主に家庭の教育によって育成されます。学校に入っても、家庭教育は人間成長に不可欠なものです。人間は家庭教育で愛憎、善悪の基準がわかって、それを生かして社会に溶け込んでいきます。

私は中国の湖北省にある田舎の出身です。記憶では、あそこはきれいな村でした。村の周辺には、樹齢何百年ないし千年以上の木がたくさんあって、美しい小川を流れて行きます。幼い頃家は貧しかったですが、両親はわが兄弟の教育に何より重視していました。生活がどんなに苦しくても、私たちに学校を辞めさせたことがなかったし、うちを離れて学校の寮に住んでも両親からの教えが絶えたことがなかったのです。

大学卒業して、恋愛して自分の家庭を結んで、今三人家族で生活しています。今までの家庭生活を振り返ってみると、楽しくて幸せだと思います。仕事でどんなに疲れても、うちに帰るとすぐリラックスできます。どんなに悩んだことがあっても、妻あるいは息子の笑顔を見て全部忘れてしまいました。家族の間でよくコミュニケーションをえています。とくに争いがあったとき、喧嘩をしたとき、コミュニケーションがあれば、問題はすぐ解決できます。

幼いとき両親からいろいろ教えてもらったが、今自分も父になって、息子にいろいろ教えてやるのは回避できない責任です。私は息子を愛が満ちている環境で成長させていって、心身健康な人にならせたいと思います。20世紀70年代以来、中国では一人っ子政策をとってから、小皇帝、小太陽という自己中心の一人子がでてくるのは無視できない問題です。一人っ子だから、甘やかしすぎてもいけないし、厳しすぎてもいけないから、私も子供の教育によく悩んでいます。

まとめて言うと、愛に満ちている家庭は私にとって心を癒してくれたり、励ましてくれたりするふるさつです

二、ディスカッション：

私：私のレポートのテーマは、大体ステファニアとおなじように、家族の大切さあるいは家族のよさについて、書きたいとおもいます。

ステファニアさん：最近大学に入ってから、本当にかぞくの大切さがわかるようになったので、これについて話したかった。現在の社会に家族をあんまり大切にしていないから、ちょっと私は心配する気持ちをもっているのです、この話について話したかった。

私：同感です。現代社会では、家庭をあんまり大切しないで、勝手に離婚するという現象

が多いですね。

ステファニアさん：みんなは、一人ずつ、別々家庭に生きているみたいことが、私はあまりわからない。私は本当に家族を大切にしたい。それにね、私は23歳です。この年は私にとって、なんと言うか、途中の立場です。今まで育ってきた家族のメンバーの一員ですけど、最近私も家族を作りたいと言う気持ちが出てきたので、だんだん家族について興味を持つようになりました。

私：私は家族を持っています。妻と息子と三人家族です。日本に来て、時々寂しさを感じて、家族のことを思い出します。特に息子のことに心配します。たとえば、勉強はどうですか、風を引いたら、妻一人で大変じゃないですか。

ステファニアさん：一人で苦しいでしょうね。

私：ステファニアさんが今言ったとおり、家族を作ることを考えていますね。将来の家族について予想したことがありますか。

ステファニアさん：私の家族のイメージは港のようなものです。ちょっと説明します。船はね、海で仕事をしますけど、ずっと海に残ることはできません。何か問題があると安全なところに帰らなければなりません。港は船にとってつまりいつでも帰る安全なところなんです。あそこは誰か手伝ってくれる人がいつもいます。だから、家族は私にとって、港みたいなものです。みんなは家族の外で仕事をするとか、学校に通うとかするけど、家族はいつでも帰ることができるんです。家族は安全なところで、いつも、何か手伝ってくれる、助けてくれる人がいるし、笑顔を見つけるところでもあります。外の世界で問題があったら、心配があったら、家族があります。私はそういう家族を造りたいと思います。私が今まで育ててきた家族はすごくコミュニケーションを大切にしていた。よく両親と話し合っ、両親は私のことをよくしている。時々喧嘩もあるし、ちょっとプライベートほしいぐらいですけど、そのコミュニケーションがあっ、よかったと思います。ほかの友達はみんな両親とあまり話さない。うちはホテルみたいで、ただ食べる、寝るところだけで、ぜんぜん両親と話さない。私はちょっと違います。だから、私が作りたい家族もいいコミュニケーションがほしいとおもいます。勿論、両親と子供はいつも同感できない。年が違うからゼネレーションギャップがあるのもさけられないことですが、コミュニケーションがあればうまくできると思います。喧嘩があっても、コミュニケーションがあると問題が解決できます。コミュニケーションがなかったら、困っても助けることができない。

私：私も家族の同士のコミュニケーションがとても大事なことだと思います。僕にとっての家族、それは僕の心のふるさと。家に帰ってくるとぐっすり眠れます。家族のよさについて、たとえば、病気にかかった時、看病してくれて、毎日仕事が終わって帰ると笑顔で迎えてくれて、その楽しさ。楽しければ、喜び合っ、苦しければ助け合います。私の家族の間でもコミュニケーションをよくとっています。日本にいるうちに時々電話やメールで家族と連絡します。電話で一時間以上話し合うこともすくなくないでしょう。

ステファニアさん：でも、今の家庭は一般的にいうとコミュニケーションが少ないです。

同じところにすんでいるけど、みんな本当に別々生きている感じがします。男の人はいつもお金のために忙しくて、夜遅く帰ります。勿論、生活するにはお金が必要ですけど、お金があれば、必ずしも幸せな生活ができないでしょう。お金ももらうけど、楽しめる機会がなければつまらないじゃないですか。お金は少なくなっても、楽しめる時間もあって、家族と話す機会も会ったら、もっといいと思います。

ステファニアさんの言ったとおり、家庭は港のようなもので、いつでも帰られる安全なところです。それにそこにはいつも助けてくれる人がいます。私の理解では家庭は心のふるさとです。家庭は港みたいだと家庭は心のふるさととは、具体的に言えばたいだい同じ意味じゃないですか。家族間のコミュニケーションの大切さについて、わたしもステファニアさんとほとんど同じ意見をもっています。

愛のこもった家庭をたもっていくために家族全員の協力が必要です。同じ屋根の下で暮らしている家族の一員として、誰でもこの家族に何か貢献するはずで、現代核家族では、夫婦は尽くしあって、尊重しあって、子供を健康させて、よりよい教育を受けさせます。子供は親孝行して、おもいやりを持っています。その中で、もっとも大事なものは家族間のいいコミュニケーションです。

私：私の考えとしては、家族同士は友達のような関係になるべきです。夫婦の間でも、親と子供の間でも何でも話し合う、親しい友達だと思います。

ステファニアさん：それはいいですけど、たぶん親と子供が友達関係になるのはちょっと無理です。親が子供に何がいいか、何が悪いかわかる、そういうことをおしえてやらなければならないので、本当の友達といえないと思います。親はいろいろ体験したから、その体験を子供に教える責任を持っています。子供はいつもこれをやってはだめ、それをやってはだめだと言われて、どうしても自由にできない。これは子供にとって、ちょっと苦しいけど、でもその後の生活で役に立つと思います。もしそういう教育がなかったら、かえって危ないかもしれない。

私：家族は人間の個性、性格を育成するために、とても重要な役割をしていますね。家族は社会の一部分で、社会の基礎ともいえるでしょう。もし家族が安定しなければ、社会も安定できないと思います。一人の人間は家族でいい個性が育成できて、社会に入れば人とよく付き合っ生活していけると思います。

ステファニアさん：私の考えでは、家族は社会の基本です。もし家族がなかったら、本当に困ると思います。今の社会を見れば、家族はなくなるでしょうと言う不安があるとおもいます。子供にいい教育を受けさせるために、家族が必要だと思います。かぞくはなかったら、こどもは依頼がなくなって、いい環境に生きることができません。

私：人間は生まれてから、家族と一緒に生活する時間は一番多いです。だから、家族は人間の性格育成に大きく影響しています。いい家庭に生活して、いい教育が受けられれば、

社会に入って一人前の人になるでしょう。

ステファニアさん：時々両親の教えも間違っているかもしれないけど、それでも大切だと思います。幼いときから、両親からいろいろ教えてくれました。ある時、両親が言うてくれることについて理解できなくて、聞きたくないことがありましたけど、後で考えたら、あれは生活には欠かせないことだとわかった。特に大学に入って一人暮らしの体験してから最もわかるようになりました。両親は教えてくれたことによって私の性格を作ってくれた。両親の教えは実に私の性格の一部になりました。

私：人間が生まれてから、一番近い見本は自分の両親です。子供は自分の親からいろいろ学んで独自の性格になります。この性格は社会に適応するかしないか、親の教育と相当関係がある。

私：中国では、人口の快速増長を制限するため、1970年代から一人っ子政策を採っています。だから、今中国では三人家族と言う核家族が多いです。

ステファニアさん：最近イタリアでは物価が高くて、お金の問題で子供を二人、三人育てるのは難しくなりました。学校の費用とかお金の不安があるので、たくさんの人は子供を一人だけ生んでしまう。

私：一人っ子は寂しいと思いますね。うちの息子はよく遊ぶ仲間のないことに悩んでいます。私の考えでは、やっぱり二人、三人の子供のほうがいいと思います。

ステファニアさん：私の作りたい家族も必ず二人、三人の子供がほしいです。

私：中国では一人っ子政策を採って以来、いろいろ問題が出てくるんです。たとえば、一人っ子は、あまり甘やかされて、自己中心の意識が強いです。

ステファニアさん：そして、なんかおじさん、おばさんがいなくなるでしょう、兄弟がないので。これは残念ですね

私：兄弟がいれば、お互いに話し合ったり、助け合ったりすることができます。それに、もし親に話したくないことがある場合、兄弟にはなせませす。

ステファニアさん：だから、政治家とか、家族のために何がしたほうがいいと思います。たとえば家族を守る法律を作ったら。子供を生むとき、国からお金がもらえるという法律を作ったら、たぶん人はもっといい生活ができて、一人っ子じゃなくて、二人、三人の子供を生むでしょう。

私：子供を育てるのは相当お金がかかるんですけど、今経済力を持っているのに、子供を一人も生みたくない夫婦がふえています。もし誰でもこういうようにいけば、人間は後が絶えるでしょう。それに子供がいない夫婦は老後の心配があるでしょう。だから、社会のために、個人のために、こどものいる健全な家庭をたてるほうがいいとおもいます。

ステファニアさんは家庭が社会の基本だといっています。たしかに、家庭は子供の成長に重要な役に立っています。ステファニアさんは今まで成長していくうちに両親からどれがいいか、どれが悪いかわからないいろいろ教えてもらいました。両親の教えはステファニアさんの

性格育成にはとても大切な役割を果たしました。これについて、私も同感です。親と子供の間には友達関係を立てることにステファニアさんが違う意見をもっています。ステファニアさんの意見を聞いて、私も納得しました。最近イタリアでは若い夫婦はお金の不安で子供を多く生みたくないですが、ステファニアさん自身は子供が二人以上ほしいです。子供がよりよい環境で生活していくにはやはり兄弟がみつようです。

三、結論：

人間にとって最も大切で、かつ必要なものとは、お金でも権力でも、また知識でもありません。命よりも大事、空気や水よりももっと必要なものは、真の愛なのです。家庭こそ愛の落ち着くところです。人が家庭を持っていれば、たとえを言うと、心のふるさとみたくて、船の港みたいです。

長く離れるふるさとに帰るあの楽しさを誰でも体験したことがあるでしょう。家庭は心のふるさととして、あなたが楽しくても、苦しくても、いつもドアを開けたまま迎えてくれます。楽しければ、あなたと喜び合って、苦しければ癒してくれます。家庭のよさについて具体的に言えば、病気になったときに一生懸命看病してくれるとか、悩んでいるときに励ましてくれるとか、こまっているときたすけてくれるとかいろいろあげられます。

家庭は楽しいことばかりではなく、時には言い争いや喧嘩などいろいろなことがあります。人は愛し合って結婚します。結婚する時、誰でも将来の幸せな生活を描いた事があります。しかし時間が経って描いた構図と現実の落差をだんだんわかっています。愛だけでは不十分です。家庭は経営するものだといわれています。いい家庭雰囲気を作るために、それに幸せな家庭を維持するためにコミュニケーションは大事なことです。

人間はうまれてから両親を中心とした家庭環境で成長していきます。両親から愛憎、善悪の基準を教えてくれて、知らず知らずのうちに自分の性格を形成します。人間の性格の形成には学校、社会より、家庭のほうが最も重要だと思います。とくに健全な家庭は健全な性格が形成するには大切です。人間は健全な性格を持っていれば、社会に溶け込むことができます。こうした観点からみると、健全な家庭は、社会や国にとって、なくてはならないものです。

家庭は愛の落ち着くところでもあるし、生命を育むことところでもあります。子供は父母の愛の結実です。人間の繁殖のため、夫婦として子供を生むはずですが、子供はよりよい環境で成長していくため、兄弟が必要です。

私にとっての家族は心のふるさとです。これからも永遠の絆を築くために家族のひとりひとりがオーケストラの楽器のように、よい音色が出せるように心がけ、生きてゆきたいものです。そして、調和の取れたアンサンブルで演奏出来たら最高です。

四、終わりに

総合クラスについて、今までの理解では、日本事情により広く、よりふかくわかるように設置したのですが、このクラスに入ってから、ずっとこのクラスの目的に迷っています。皆さんのレポートのテーマをみて、全部プライバシーのもののようにです。レポートの要求からみれば、たとえばオリジナリティーとか、一貫性とか、文章の力を高めることにあるではないですか、ロジック的な思考の能力を向上させることにあるではないですか。勿論、この授業のやり方は新しい試みですが、成果は人によってだいぶ落差があるでしょう。しかし、この学期を振り返ってみると、リーダーの百合子さんや、サポーターの牛窪さんなどの皆様に毎週一回優しく指導してくれて、よく勉強になって、誠に感謝の意を言いたいと思います。

大切な人

— ASKA

総合ゆりもめ7 虹

❀ 目 次

1. 動機レポート
2. ディスカッション
3. 結 論
4. 終わりに

♡ 1. 動 機 レポート

大学卒業したとき、自分と同じ年の新卒生たちに激しい競争が起きて、会社に履歴書を送ったり、面接を受けたりした経験があるでしょう。そのとき、私もその厳しい就職活動に囲まれている一人でした。よく覚えているのはある会社で面接を受けたとき、私を含めて、7人の応募者をグループとして同じ質問を答えられました。「一番尊敬する人物はだれですか？理由を言いなさい。」という質問でした。確かほかの6人は「親たち」と答えました。その一方、私は「日本の歌手 ASKA」と猶予せずに答えました。理由は言えるほど多かったので、面接の場で粗雑に答えたが、ここでちゃんと自分の好きな理由を述べたいです。

ASKA が私の人生にとって大切な人だと思います。いままでの私になれるのはほとんど ASKA のおかげです。もちろん、いまの私は完璧とは言えませんが、少しずつ成長している私なんです。

ASKA を知り始めたことは偶然でした。1997 年の 5 月のある日、テレビに映れた一人の姿が私の目に入りました。その次の日に上海でコンサートを開く前に記者のインタビューを受けていた ASKA でした。「コンサートのあと、すぐ CHAGE と解散することについての説明は？」と聞かれて、「いまそれぞれ自分の音楽事業やっているけど、解散など全然考えたことがない。事務所からそういううわさが聞かせたのはただ事務所の一つの宣伝手段だと思う、多くのファンを招くためね。」と平気で答えました。それを聞いて驚きました。いままで見たアーティストのインタビューとか、そんな答えを聞いたことがなかったです。5秒も要らないうちに、ASKA の素直の答えに、彼の正直の人格に引っぱれました。このすばらしい人は誰かという疑問を持っていて、次の日のコンサートへ行きました。中国の歌手と違って、冗談とか、ファンにご機嫌を取る話がなかったし、まじめに楽器を弾きながら歌うことを通して、気を落ち着かされた雰囲気ファンに音楽の魅力を感じさせました。まだ馴染めないメロディーに浸って、日本語の歌詞が全然わからなくても、もう ASKA の世界に引き付けられました。そのときに「歌詞を理解できるように、日本語を勉強することにしよう！ASKA の世界を理解するために、10 年内絶対日本へ行く！」と誓いました。ちょうど高校三年生の私は、同年 6 月のとき、躊躇しなくて大学入学志望欄のところに全部「日本語科」と書きこみました。これは ASKA から私の人生に初めて与えてもらった重要な決定だと思います。もしそのとき ASKA のことが知らなかったら、いま日本語が話せる、日本で留学できる私もないです。

最初未知の領域から、日本や日本語にだんだん興味が浮き上げた私のようなファンを世界中

から引きつけた ASKA の音楽は国と国の交流の橋と言ってもいいでしょう。90 年代大人気を集めた ASKA は世界の舞台を巡って、「We are the Mr. Asia! 」と大きな声でアジアの音楽を伝いました。流行歌手なのに、人生や社会についての考えが歌詞を通して人々の共鳴を引き起しました。♪「世界の平和を祈り」のような歌詞に感動させる私は文化交流に力を入れた ASKA に尊敬して堪えない。

時間の流れは容赦なく残酷のことです。どんなに好きでも、いまの ASKA はもう日本のトップ歌手とは言えません。でも、ASKA は世の中の波に乗りこまないように個性を守って、自分の音楽を追求し続けています。「もしできれば、また 60 年音楽事業やりつづけたい。」って ASKA が音楽に対する本音を思い出して、自分もちゃんと夢や信念を守って努力しなければならないと決心しました。

素敵な人格、世界の共鳴、信念の守り、以上は私が好きな ASKA です。しかし、これは ASKA に属するものですが、私のものではないです。

実は、ASKA が好きだと言うより、私自分が ASKA のような人になるように、自己挑戦しているとも言えます。皆さんもそれぞれ自分に対する大切な人が存在しているでしょう。その人のために、何か命も賭けるほど力を入れたことがありますか？私のほうは歌詞がわかるために、日本語を勉強し、ASKA の作った曲が演奏できるように、ギターを学びました。それに、ASKA の情報が知りたいので、パソコンを買って、学び始めました。もっと多くのファンと知り合えたい、多くの人たちに ASKA の優れさを伝えようと思ったので、自学しながらホームページも作ってみました。つらいと思ったときもありますが、いま考えてみれば、逆にもらったものは自分から与えたのより貴重です。ときどき、仕事に疲れて、生活に厭きることになったら、「いま ASKA も頑張っていて、作曲しているかな。」と思ったら、すぐ元気が戻ってきて、続けてやりました。根気な私になった、挑戦に逃げない私になった、理想を実現するために努力している私になった。ASKA といっしょに頑張りたい、一緒に成長したいですから。

ASKA の愛の世界に落ち込みました。これは私の人生に一番正しい選択、一番ラッキーな出会いだと思う。ASKA は私の人生にとって、一番大切な人です。

☺ 2. ディスカッション

<Part 1> (虹とポーランドのアガタさん--以下「アさん」と省略する)

虹：アガタさんにとって大切な人がいますか？

ア：はい、家族の中で二人のいとこ（男一人、女一人、アさんは中の年）、彼らと仲良く、悩みとか問題があったら、彼たちに良く相談します。

虹：アさんに何か影響を与えたことがある？

ア：ものに対する扱い方、勿論悩みをいつも相談するが、相談だけじゃなくて、彼たちといっしょに成長してきたので、彼たちから一つの人生に対する考え方をもらえました。それは「悩みがあったら、最初は落ち込んだが、どんな悩みでもずっと続けるわけがなく、きっと終わるときがあるから、いつか元気になる」と信じている。」という考えです。

虹：彼たちに何かやったことがありますか。

ア：私は絵を描くことが好きです。上手じゃないけど、ほんの気持ちで彼らたちにあげたことがあります。彼たちのみにわざわざ書いた絵でした。

虹：自分の気持ちを込んでいる絵でしたね。わーすばらしい！どんな絵ですか？たとえば、人物の絵？風景の絵？

ア：たくさんありましたね。彼たちもらったあと、嬉しいと伝わってくれました。

虹：絵を渡したあと、何か評価をもらいましたか？

ア：そうですね。「とてもいい、上手」もあるし、「ちょっと直した方がいいじゃないか」もあります。そういうとき、書き直しました。私に本音を言われたら、自分の成長に役に立ちます。

虹：どうして彼らたちのみに話し合える、大切になった？

ア：私の家族は大家族ですが、彼らたちと一番仲いいです。ほかの親戚に比べて、強い愛だと思えます。性格の面や、好きな物も同じです。映画とか絵とか。両親より彼らたちによく相談する・

虹：彼らたちからもらったアドバイスはほとんど役に立ちましたか？

ア：彼らはポーランドからオランダに引っ越したばかり、住み始めました。最初言葉も分からなくて、学校への通いも大変し、私の状況とだた同じですから、相談して自分の悩みも解けました。たとえば、私は日本へ留学に来てから、あきらめたかったときがあります。今年の4月日本の文部省の試験を受けるまえに、どうしてもやめたかった、「絶対だめだ、絶対受けれない」毎日このような考えに囲まれた。彼らたちは「これはただ自分の考えだけ、自分の力をわからなかったから。」といわれたから、積極的な考えに考え直しまして、力も出せました。

大切にする人は自分の生命の中に重要な影響をくれて、欠けない役割が立ちます。自分の成長に直接影響をあたえるのはもちろん家族の人たちです。身の回りにいて支持してくれるのは心を暖かめ、幸せに浴びるような感じられるので、勇気が出せます。人は孤独で社会に存在していなくて、大切な人と、心も手も結ばれて一緒に努力するのは一番の幸せだと思います。

虹：ちょっと話題変わって、先週相手探しのとき、家族じゃない場合も大切の人がいるんですよ。

ア：はい、ポーランドの歌手、50代の人です。私は小学校の時から知りました。彼は昔大人気だから、小学校のとき、どこへ行っても彼の歌を聴けたから、みな彼の歌をギターで弾きながら、歌えました。知らないうちに、いつも彼の歌を聴いていた。でも、好きになったのは、1969年、30年まえ、ポーランドはロシアと同じ政治のやり方で、いろいろのポーランド人の悩みとか問題に関する、ポーランド人を聞いたら、みな身の近いことだから、同感できる、気持ち転換できる歌に感動されましたから。

虹：いままだ歌っていますか。

ア：彼は喉の患になった、その時、「すごく悲しかった、ほんとうにもったいない」と思った。

歌手の場合、喉が一番大切です。もし無くなったら、ほんとうに生活の一番の大事の生きがいがないような感じです。心配した。歌手だから、彼は貧乏とは言えないが、私は気持ちだけで、友達と一緒に彼の歌を歌って、彼に尊敬を表すコンサートを主催しました。チケットで売れたお金は彼の治療に使わせるつもりでした。

虹：うまくいきましたか？

ア：ええ、たくさんの方が応援に来ました。ある有名な歌手も来て、彼の歌を歌いました。イベントの後、彼のお宅に電話して、彼の奥さんに連絡してから、ちゃんと揃えたお金を彼の治療費用として渡した。

虹：本当にいいアイデアですね。彼にとっても、思い出で、私のファンはこんなすばらしいことをやった、病気と闘う力も出せると思います。このことを通して、自分の成長に何か勉強になりましたか。

ア：自分の利益じゃなくて、大切な人のために、したい気持ちでやればすごくうれしかったです。

虹：では、彼からもらった影響をまとめて言ったら。

ア：彼の歌詞はほとんど詩である、また、政治や歴史、社会問題に関する歌詞も多いから、いろいろ知識を増えて、勉強になりました。また、小学校からずっと彼の歌を聴いてきたから、もちろんそのとき歌についての感じはいまもう一度聞く感じと違うけど、でも、小学校の自分と高校時代の自分のことも思い出せます。なんか自分の成長を振りかえてみられるような感じです。

まとめ：

アガタさんとディスカッションを通して、アガタさんにとってどんな人が大切な人と分りました。すなわち応援してくれる人です。家族の人であろうか、好きな歌手であろうか、大切な人もアさんの成長に緊密の役割があります。生活の悩みや勉強の困難など一人の力で解決できない場合は大切な人から支持をもらえて力が出せます。声だけ聞こえても、安心できるようになりました。

アガタさんの最後の言葉：「自分の利益のためじゃなくて、大切な人に、何かやれることがあれば、自分のためにやるよりうれしさが感じられます。」にととても同感しました。それぞれの人にとって、大切な人の存在が違うが、家族であろうか、友達であろうか、好きな人であろうか、自分は大切な人にきっとすこしでもできることさえやりたいです。

また、長い間好きになってきてから、好きな「経歴」を振り返って見れば、自分の成長も見られるような感じました。大切な人は人生の歩きにとって主導な地位を占めてると言えるに違いません。

<Part 2> (続いてアガタさんと話し合う...)

ア：どのように ASKA を知り合ったんですか？

虹：最初は実は歌を聞いたことが全然なかったが、突然テレビでインタビューを見て、人格

がとてもすばらしいと思ったから、ひきつけられた。

ア：私にとって性格じゃなくて、歌詞の内容が一番大事です。感動られる歌詞を聞いたあと、好きになった。普通の歌は若者たちと同じにぎやかなあと、何か考えもないし、歌の内容にも集中できないし、ただ、リズムとかイメージに残っています。もちろん、音楽の細かいところに「あーいいな」と2, 3回聴いた後気が付いたこともあります。

虹：私はそのとき日本語まだわからなかったから、訳した歌詞を読んで、世界に対する内容もあるし、以前聞いた中国や香港のラブソングと違って、びっくりしながら、好きになった。

ア：好きになるのは一番重視してるところは？

虹：やっぱり人格だね。彼は歌手としての責任もちゃんと負っているから、偽唱じゃなくて、わざわざコンサートを見に来た観衆たちに本物の LIVE を見せました。また、全部ギターを弾きながら、まじめに歌いました。このまえ、中国や香港の歌手がコンサートの時、服を何回も着替えて、時間を無駄になっちゃいました。とてもチケットの高価に値しないと思いました。

ア：歌手といえば、自分のファンに気を使う人もいるけど、全然気を使わない人もいるね。自分が偉そうで、みんな私の歌を聴いているような偉そうなぶりをしています。

虹：また ASKA のファンの BBS 見たら、みんなは ASKA の人格に影響されたかも、平和で、友好的にメッセージを書き込んで、お互いに応援しています。たくさんのファンは「落ち込んだ時、ASKA の歌を聴いたら、元気出せる。頑張らなきゃ！」私と同じの心音がありました。でも、ある香港の歌手の BBS 見たら、ファンたちは「彼は私の物だ！」と喧嘩したり、ほかの歌手は「バカ！彼は一番イイ！」と悪口を言ったりとか、とても気持ち悪くなっちゃった。それから努力とかやり気は出るわけがないと思います。

ア：そうですか。好きな力は頑張る動力に変われますね。

虹：そうですね。歌手は自分の歌と声じゃなくて、みんなに見せているから、みんなの模範として、自分の責任と人格をちゃんとやらなければならないです。

ア：あ、これはちょっと... (納得できないみたい...)。責任はもちろん、人格に関係があるんですか。私すきな歌手が若かった時、いろいろ遊んで、たくさんの女と付き合ったが、だんだん落ち着いてから、全然違う人生し始めて、歌も違うようになりました。これでもっと聴衆たちの人生に合える歌だと思います。みんなは幼稚から成熟になるから、自分の人生経歴と共通点があって、歌にもっと理解しやすいです。

まとめ：

人格に対する見方は勿論人によって違います。私のほうは真面目、正直な人が好きになります。アガタさんは作品に一番関心を持って、作品に感動されたから、好きになりました。確かにいい作品を出すために、わざわざ豊かな人生を味わう創作者もこの世に少なくないと思います。いろいろな女と付き合ってから、個性あふれる作品を出せるという言い方も聞いた事があります。逆に考えれば、歌手の立場としてもたぶん世の中に自分の顔や女との噂などに注目されなくて、作品に関心してもらいたいのだろう。

お互いに積極の面で応援したら、お互いの努力の動力になれると思います。

<Part 3> (相手は大学院生の中川さんです。)

虹：私のレポートを読んで、わからないことがありますか？

中川：わからないというと、ないんですね。どうして好きかちゃんと書いてだから。

虹：では、違う考えとか？もしあれば。

中川：この辺で、素敵人格とか自分の成長に関係ある？

虹：これは私好きな理由です、それで、このような人間になるために、いままで努力しています。

中川：目標という感じですか？

虹：心の支えですね。目標は毎年毎年変わるけど、ASKA がずっといるから、毎年の目標に努力しようという力が出せます。

中川：歌を聞くと、頑張ろうという気持ちになれる。

虹：歌じゃなくてもいい。歌詞の内容や ASKA のことなど思い出したら、すぐ動力になります。

中川：力が出せるのは、それは成長するということですか？

虹：成長は日本語の勉強とギターとコンピューターを勉強したことまた自分の考えが広がったこと。

中川：新しいことを始めるチャンスを与えるということですか？日本語始めよう、ギター始めようとか。成長というかなんか新しいことに新しい分野に接触されること？

虹：(???) 中国人にとって、成長は年を増えしたがいに、知識を増えること です。また世界に対する考えも成熟になって、自分もちゃんと自分を認識することは成長と思います。

中川：私は思ったのは、成長はなんというか、知っていることを深くなる と思ったんですが。

虹：は～違うんですね！私のレポートのこの面で分かりにくいですか？

中川：そうですね。虹言ったのも、それはもちろん成長ですが、そう言われると、ほかのいろいろな新しい情報や考えが入ってくるということですね。そういう意味だったら、私はそういう意味の成長のきっかけは彼氏かなあ～もし相手はギターを好きだったら、私もギターを弾いてみたいと思うね。

虹：好きな人のために、自分を換わるということですか？

中川：その人がわかるために、その人の好きなことを一緒にやってみたい。

虹：やってみたら、二人の共通点になるでしょうね。

中川：共通点にならないこともときときあって、その人はギターがすきだけど、私やってみたら、そんなに面白くないね。でも、その人とギターの話をするだけでも、もっとわかるようになった感じられました。

虹：別の話ですけど、中川さんは相手をわかるようにいろいろやってみたことがある。逆に相手から中川さんの何か好みに合わせるようにやってくれたことある？

中川：そうですね。ないですね。

虹：そういえば、中川さんは自分が積極的なほうが好き？自分のことを相手が理解してくれな

くても平気？

中川：そうですね、そういわれると。私は両方のやり取りがたくさんできるほうが好きなんです、そういう人と一緒にやっていくほうが、心の支えになれて、自分で成長できると思う。最初そのグループが好きだったけど、でも彼たちはスターで交流できないでしょう。私一生懸命好きになっても、向こうは知らなかった。それで、考え方変わってきて、今の彼氏が大切な人になっている。彼氏と話すことを通して、だんだん理解できて、お互いに成長できると思います。でも、虹さんはちょっと違う感じですね。

虹：そうですね。そういわれると、いまもちろん彼氏と話したり、お互いのことに關心を持っているけど・・・微妙ですね。

中川：虹さんは自分が ASKA を好きで、それが ASKA に届かなくても、それはそれでいい？

虹：(笑う) やっぱり届きたいですよ。でも、チャンスがないから、チケットを買って、コンサートを見に行くのはもうファンとして支持の行動だと思う。一人の力として、ちょっと応援してみたいです。

中川：は...なんとか聞いてみれば、ASKA は普通の人間じゃない感じでした。

虹：(笑う) そうですね。もし心の構造で言うと、ASKA は神様と同じ最高のソラの階段にいる。次は地面の部分で家族と恋人がいて、一番下は地下の部分で悲しいことや秘密が隠れてい

Aska 神様

家族、恋人、友

ます。

まとめ：

中川さんと話を通して、別の意味の成長を分かるようになった。(~ のポイントは両方の違う考えを出したところ。) また自分が愛に対する見方もはっきりになりました。相手をもくもく愛していても、自分の力を尽くして愛せば、もう結構満足しています。それに自分の動力になれます。自分の感情や考えを通じれないと我慢できない中川さんは私と違います。お互いに話し合いたい、もっと理解したい気持ちで、頑張っている中川さんはちゃんと話しをしてくれる人を大切な人として大事にしています。

☀ 結 論

最初「ASKA 大切な人」と題したレポートですが、いまは「大切な人 ASKA」に変わりました。なぜかというと、みなさんと話し合いを通して、「大切な人」についてもっと一層深く理解しましたからです。動機レポートに書いてあるように、ASKA は「素敵な人格、世界の共鳴、信念の守り」の PR があるから、自分もわけがわからないまま衝動的に好きになり、大切に生きてきたうちに私の目標になりました。ASKA のような人になりたいから、私は日本語の勉強や世界各地との交流にだんだん興味が起きました。それに、自分の性格もしっかりになって、こ

れから根性よくて信念や夢を守るように努力しようと決心しました。

でも、ASKAは私にとって勿論大切な人ですが、他人にとってただ一人の歌手です。それに、人それぞれにより、大切な人の意味が違って、大切にしている条件も違います。ディスカッションの一回と二回目はポーランドのアガタさんとしました。歌手に関心を持っているアガタさんは私と同じ考えで、大切な人のためにいろいろ力を尽くしました。病気になった歌手にボランティアのコンサートを開いて、治る費用のため、一生懸命チケットを売りました。大切な人にできることだけしてあげたい気持ちがよく理解できます。私の場合は、自分に対する要求を高め、知識を磨いてくることを示しています。二人はお互いの歌手のことがよくわからないんですが、その大切さが二人の人生にとって同じ地位を占めています。

3回目のディスカッション相手の中川さんは別の感じを持っています。大切さから話題を広げ、成長や友情などいろいろ話しました。中川さんにとって大切な人を理解するために、勉強したのは感情の成長といえますが、私のほうは大切な人を動力として、勉強したのは自分の知識の成長だと思えます。それに、感情を通じるかどうかについて、交流を重視している中川さんは私のように歌を聞くだけでも精神的に「頑張ろう」という原動力をもらえないから、話してくれる恋人を大切にしています。

いろいろ話し合った結果、私は自分のことをもっと了解できるようになった感じられました。大切な人 ASKA を目標として、支えとして、原動力として頑張ってきた私は知らないうちに、自分の知識を高め、自分の経歴が豊かになりました。いま考えてみたら、これは人生の成長と言えるものです。ASKA から直接もらった恵まれじゃなくても、大切だから、精神でもいいし、力でもいいし、ずっとこのような大切さの感じを守っていこうと思っています。

追 加 (レポート本体ではない)

2003年12月31日札幌ドームへASKAのカウントダウンコンサートに行きました。ずっとの夢が実現されたので、私は涙を溢れながらコンサートを見ました。努力して取ったアリーナ席で近く見えるASKAはもう99年の上海コンサートから4年久しぶりでした。日本全国から同一の目的で集まった数万人のファンと一緒に2004を迎えたことはきっといい思い出になると思います。

目の前のASKAは思ったよりちょっと年を取った感じでしたが、きれいな声とまじめな態度は相変わらずものでした。途中で一回コンサートをストップしたことがあります。僅か数句歌ったが、突然ASKAが「御免。」と言ってコンサートを止めた。先の高音ちゃんと声が出なかったので、もう一度やり直したいASKAはファンたちからもっと熱情な拍手をもらいました。

コンサート会場で一つ注目されたものがありました。貧乏の子供たちのために設立された支援募金箱でした。子供たちの笑顔が咲いている写真のしたに、ASKAが世界に対して愛と平和の祈りも書いてありました。なかなか普通の商業コンサートで見られない風景だと思っています。もう一度ASKAの純粋な心に感動されて、深く愛しくなりました。

✓ **終わりに**

いよいよレポートの最後の部分になるところです。最初は7ページのものがちゃんとできるかどうか心配していたが、グループのみなさんから助かっただいて、無事にここまで頑張ってきました。

総合授業はいままで受けた授業と違って、単なる先生から知識を受けて、教科書と辞書を頼る方式ではなく、進みにしたがって、自分は自分のことを認識できるようになる授業だと思います。体験してから、以下のポイントは一番じみじみ感じました。

授業のやり方は特別です。もちろん、以前もグループ活動があったが、総合のような直面に意見やアドバイスを出す授業がなかったです。みんなの本音を聞きながら、自分は自分のことをわかるようになりました。レポートも典型的な本論、論拠、結論の形式じゃなくて、自分の感覚を中心にして、真実な自分をみんなに見せました。

また貴重な授業時間を節約するために、インターネットの利用はとてもいい方法です。暇次第で便利の上に、BBSのメッセージを読んで、毎日毎時身の回りにグループの支持があるような感じられました。

授業から勉強になったものがたくさんあります。まずは自然的な日本語で文章を書けるようになりました。グループ全員が分かるまで何度も書き直さなければならぬので、書く能力や文法表現は上達になりました。

それから、お互いに質問することを通して、日本事情や日本人の考えは自国と他の国の違いを知りました。同じ単語でも、中国人の中で通じられるが、日本人はほかの意味と感じたことが少なくないです。みんな個性あふれるさまざまな視点を取材して書いた文章を読んで、知的な了解が広くなりました。

なんといっても、今回の総合授業は珍しい体験でした。これからもみなさんと仲良く一緒に頑張りましょう！

P.S：疑問もいくつかあります。

1. 細川先生は毎年同じテーマを学生にやらせるそうです。そう言えば、先生はインターネットでの通信授業のビデオも全然変わらないことですか？教案の用意とか要らなくて一生懸命レポートを書き直していた私たちに比較して、チョウ~楽だと思いますね。
2. 先生を見たとき、学問好きなイメージを与えられました。知識的に合う格好よい人だと思います。しかし、いままで顔をあわせるチャンスが少なかったです。私たちにとって残念至極です。私たちのゆりかもめ7グループはみんな頑張っていたから、ときときリーダーからチョコレートやお菓子などの賞品もらえますよ。先生はいいタイミングに当てたら、みんなと一緒にお菓子を食べながらディスカッションする場面に逢えると思います。そのとき、ぜひいらっしゃてくださいね。(^ _ ^)

日本での留學生活

馬 克堅

目次：

- 1、 動機レポート
- 2、 デイスカッション
- 3、 結論
- 4、 終わりに

.....

1 . 動機 :

私は今年4月、日本に来たものである。日本での留學生活はわずか半年だけど、かつてない楽しみと苦しみをいっぱい味わった。楽しむと苦しむとにかかわらず、私の人生は豊かになったと思う。

日本に来て最初の三ヶ月間 日本に来た一番主な目的は勉強だと思って、毎日ほとんど図書館で勉強して、過ぎた。周りにかつて見たことはない建物や人がいっぱいあるんで、私にとって、とても新鮮だと思った。そして、毎日、図書館で自分が好きな本を読んだり、好きなことを勉強したりすることは本当に楽しかった。そういうような環境でそしてそういうような感

覚で生活することが私にとって一番望ましいことじゃないかとずっと思った。その三ヶ月は私にとって一番楽しいときであろう。

でも、それから苦しみがどんどんたずねてきた。まずは住所のことなんだ。一緒に住んでいたクラスメートはきゅうに帰国することにした。私自分でそんなに高い家賃を払うのは無理だから、ほかのところへ引越しなければならぬ。そのときから、引越しのややこしさを自ら感じた。さらに、予想以上のお金を使ってしまった。それから、アルバイトをしないと、上野公園の中でのホームレースになる恐れがある。だから、日本に来て四ヶ月後 バイトを探し始まった。そのとき、ちょうど夏休みの直前だから、バイトを探すのは私思ったより難しかった。一日中 何十回の求職電話をかけたことがあったが、面接をしてくれた機会さえ得られなかった。いろいろの苦労した結果、やっと、友たちの紹介で清掃事務所でごみの収集という仕事をもらった。今年の夏は“冷夏”って言われているけど、外でごみを収集するのはやはりつらいことである。そのつらさは皆さんに伝えなくても、創造できると思う。実は今考えれば そのバイトは私がやったバイトの中で一番楽だった仕事である。なぜかという、それからのアルバイトは体の動くだけではなく、頭もずっと動かなければならぬ、それは人間にとって一番疲れることだからである。とにかく、今までアルバイトの苦しみ

をいっぱい味わった。

アルバイトは苦しんだけど、楽しいときもある。一番楽しいときもちろん給料をもらうときである。たくさんの苦勞を通じて儲けたお金が手にすることは誰にとっても一番楽しいことであるはずだ。また、国にいたときぜんぜんやたことがないあるいは考えたこともないのつらい仕事はだんだんなれるようにそしてうまくできるようになったときも本当にたのしい。いや、楽しさより成就感のほうがもっと強いかもしれない。

アルバイトの収穫といえば、やはりたくさんのことを勉強になったことだと思う。たとえば、アルバイトをするとき、いろいろの日本人と一緒に仕事をして、彼たちの仕事振りや仕事の仕方などを分かるようになる。そして、一緒に仕事をしている日本人とコミュニケーションをして、日本語の勉強になるだけではなく、普通の日本人の考え方も分かるようになった。そして、いろいろやったことさらに考えたこともないしごとをして、一般の仕事の進み方を勉強できると思う。将来、今やっているような仕事を二度としないかもしれないけど、一般の仕事進み方を身に付けたら、どんな仕事をして、必ず役に立つと思う。

今、大学院へ出願したので、大学院の入学試験を準備し始めなければならない。でも、アルバイトと勉強の間でどういうふうにバランスを取るか、二つの方面は両立できるかという問題が生じた。アルバイトをしないと、きちんと勉強できるが、生

活費と学費をもらえなくなってしまった。アルバイトをしたら、勉強する時間はなくなったし、勉強する気もなくなってしまった。こういうような矛盾はそれからもいっぱい出て来るに違いないが、どのように解決したらいいというのはかきちゃんと考えなければならない問題である。

とにかく、日本に来て、苦しいときは、本当に苦しいけど、楽しいときもある。日本での留学を通じて、たくさんのことを体験して、いろいろの困難を乗り越えて、多くの知識も勉強できるようになった。それは私の人生にどんな影響を与えたか、私の成長に対してどんな役割があるか今はおそらくはっきり分かるはずはないと思うけれど、なんといても、今までの留学生活は私の人生の中でとてもいい体験だと思う。

.....

2 . ディスカッション :

第一回 : (相手はタイから交換留学生として来たニーさんです。特にアルバイトについていろいろ話しました。)

私 : 日本でアルバイトをしたことがありますよね。

ニーさん : はい、いまもやっている。

私 : アルバイトについて、どう思う ?

ニーさん : これまでやったことをたくさん体験して、とても面白かったと思う。

私 : では、アルバイトを通じて、どんなものは勉強になると思う ?

ニーさん：いろいろのものを勉強になった。

私：たとえば？

ニーさん：たとえば人間関係とか 実は国にいた時 仕事をしたことがないから社会の人間関係はいったいどんな様子なのか分からないもんです。アルバイトを通じて分かるようになった。そして、人とのコミュニケーションの仕方も勉強になった。

私：コミュニケーションの仕方というのは？

ニーさん：それはすなわちどういうふうに自分の気持ちを他の人に伝えたらいいか そして、どういうふうに他の人の気持ちを理解すればいいかという問題だと思う。

私：ニーさん：それは日本語の言葉の表現だけではなく、あいまいの表現も勉強になるでしょうね

ニーさん：そうだよね

私：他の勉強になることはまだある？

ニーさん：ううん、アルバイトをするとき たくさんの日本人とコミュニケーションをして、普通の日本人の様子や姿、そして、彼たちの生活ぶりや考えなどもわかるようになると思う。一語とで言うと 本当の日本文化を身近に感じたと思う。

(ニーさんが言ったのはわたしが大体同感を持っている。多分外国でアルバイトした体験があれば、誰でもそういうような同じ同感

をもっていると思う。それはアルバイトを通じて得られたあるいは勉強になった共通のものだと思う。)

私：うん わかりました。以上言ったのは全部アルバイトのいいところですよ、なにか悪いところがあると思いますか

ニーさん：そうですね。やっぱり人間関係のことだと思う。人間関係はうまく行けないと、自分が知らないうちに傷づかれることがあるんで...

私：それはそうだよ。

(ニーさんが傷つかれたことはいったいどんなことが言わなかった。彼女のプライバシーとして言いたくないかもしれないと思って、聞かなかった。実はわれわれは将来学校から卒業して社会に入ると、傷つかれたことは必ず少なくない。今傷つかれて、社会の状況をちゃんとわかるようになったら、将来傷つかれないようになれると思う。それは今から見れば、よくないことかもしれないが、長い目で見ればいいことじゃないかと思っている。それもいい勉強になったと思う。)

じゃ、全面から見れば日本での留学生活はどう思いますか？つらいと思いますか？

ニーさん：そんなにつらいとは言えないけど、自分の国での生活と比べたら、やっぱりつらいと思います。私は一人暮らしをしたことがないから....

私：一人暮らしはつらいと思う？。

ニーさん：そうですね。実は国にいたとき、ずっと母と一緒に生活したので、買い物や食事などのことを全部母はやってくれて、私はあまり心配しなくてもいい。でも、日本に来てから、そんなことを自分でちゃんと考えなければならぬ。だから、最初るときちょっとつらいと思ったが、今はもうなれた。

私：私にとって、一人暮らしは初めてじゃないから、そんなにつらいと思わなかった。今一番つらいと思うのはやはりアルバイトと勉強の両立ということです。

ニーさん：アルバイトをすることはつらいと思わない？

私：そうだね。アルバイトそのものはそんなにつらいと思わない、もうなれたので、だけど、アルバイトをしたら、勉強する時間がなくなったし、勉強する気もなくなったので、これはつらいと思う。日本に来て一番主な目的は勉強することだから、勉強できないことは私にとって、我慢できないことです。

ニーさん：でも、やはりアルバイトをしなければならないよね。

私：それは問題だよ。アルバイトをしないと、お金がなくなったら、もっと大変になった。困るね。

だから、勉強とアルバイトの両立ということは難しいだね

(ニーさんにとってつらいことは一人暮らしのこと 私にとってつらいことはアルバイトと勉強の両立のこと 二つのことは違う

けど、やはり長い目で見ればいい経験だと思っている。)

第二回 (相手は台湾からオーストラリアに移民したジュニーさんです。)

私：ジュニーさんはアルバイトをしたことがある？

ジュニーさん：あるよ。セブンイレブンで

私：アルバイトはどう思いますか

ジュニーさん：嫌いです。

私：嫌いですか、何にか楽しいことがないですか？

ジュニーさん：あっ、今やっているアルバイトは楽しいと思う。あの、子供に英語を教える仕事で 一時間三千円 そして、子供たちと会話をして、とても面白い

私：いいね うらやましい

なんかつらい時はありますか

ジュニーさん：つらい時は…… あっ あるよ レストランでアルバイトをしたことがある それはつらい 疲れる。特に忙しいとき とても疲れる。

私：それで、アルバイトを通じて、何にか勉強になったのはありますか

たとえば いろいろの人とコミュニケーションをして

ジュニーさん：いや、わたしはひととのコミュニケーションが好きでアルバイトをしなくても 人とコミュニケーションできると思う。

私：いや、そういう意味じゃない 私は言いたいのは たとえば

日本でアルバイトをして にほんごの勉強になれるということな
んですけど

ジューニさん：ああ 実は私は日本でアルバイトをあまりしない。
なぜかというと

わたしは奨学金をもらったので アルバイトをできないからです。
英語を教えることだけ ok。

私：あ そうなんですか

じゃ 留學生活はどう思いますか

ジューニさん：実は留學を通じて一番分かったのは たとえば 家
族とか 友達とか 彼氏とかから離れて 一人で生活したら、ぜん
ぜんできない 生きられないと思ったが 実際にしたら、何でもで
きるようになった。

私：まあ とにかく 人間というのは何でもできるものだといふこ
とですよ。これは同感だ。実はわたしは日本に来て最初の三ヶ月
アルバイトをしなかった。そのときね 周りの友達からアルバイト
のつらさをたくさん言ってくれたんだ。そんなつらいことしたら、
私はぜんぜんだめ、ぜんぜんできないと思ったが、実際 二、三ヶ
月のアルバイトをすると それはたいしたことじゃないと思うよ
うになった。これは多分アルバイトを通じて、一番勉強になったも
のだと思う。すなわち どんなことでもやってみれば、できるとい
うことですよ。

ジューニさん：そうですね、ずっと甘い環境で生活したら、自分が

なにができるかわからなくて、何も勉強にならない 成長もできない。つらい生活を体験したら、成長になったと思う。

(第一回のディスカッションで話したのはとても表面的なことだと感じがする。第二回のディスカッションで留学生活またアルバイトを通じて具体的にどんなものを得られたかということあまりはなしなかったが人間というのは何でもできるものだというもっと深いことまで話したので、とてもいいディスカッションだと思う。)

.....

3. 結論:

結論:私は最初の目的は日本での留学生活またアルバイトを通じて、いろんな楽しいことや苦しいことなどを体験して、自分がきっと成長になるということについて説明したいと思ったが、ジューニさんとディスカッションしたあと、牛窪さんと星野さんと一緒に成長という話題でいろいろ話した。そのとき成長についてよく考えてみたら、自分が成長になったのかあるいはどのように成長になったかということは今わかるはずがない。十年ないし何十年をたって、今の留学生活を振り替えて見たら、そのときの自分がどのように成長したかわかると思う。ディスカッションの時 話したアルバイトの体験や一人

暮らしの体験などのことはただいい経験それともいい勉強だけだと思っている。それらの経験や勉強など成長の要素になるかもしれない。最後 強調しなければならないのは 人間というのはなんでもできるものだという考え方を持つようになったのは、多分ほかの体験、勉強よりもっとも大切なことだと思う。それは、留学生活を通じて得た一番大切なものだと思う。

.....

4. 終わりに

最初るとき、この授業はつまらなかったと思ったが、何週間が経ってから授業の面白さを感じた。たくさんの人と一緒にディスカッションを通じて、まず日本語の勉強になった。また 自分のことあるいは自分が興味を持っていることについて深く考えるきっかけとして、たくさんのことを勉強になったと思う。